

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021年度大学評価結果総評】(参考)

SSIは、とくに各種の専門競技を行っているアスリート学生を対象にスポーツ能力の向上を目指しながら将来に向けてより幅広いキャリアプランニングを可能とするなど、スポーツを科学的・文化的に捉えると同時に学部の専門分野を追求し、知識の融合を図ることで高度なスポーツ文化の担い手としての人材の育成を教育目標とするSSIは、その設置から15年以上経過した。そうした時期に、インスティテュートのカリキュラム体系の全面的な見直し作業に取り組むことを当面の目標として設定したことはきわめて時宜に合ったものといえる。

その場合に、これまでの教育目標やそれに沿ったカリキュラムポリシーが十分に達成されているのか、不十分な場合にはどこに課題が潜んでいるのか、その課題を解決するためにはどのような点を再検討する必要があるのか、といった点について、専門委員会で十分に協議し、本インスティテュート関係者の間で共有することが必要であろう。また、そうした作業の取り組みの一環として、学生のニーズや評価を把握する作業が不可欠であろう。本インスティテュート受講者の卒業後の追跡調査やカリキュラム見直しのための学生に対する固有のアンケート調査の実施も検討してもよいと思われる。なお、自己点検・評価シートにおいて「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020年度目標が概ね達成されていた場合についても、次年度さらなる成果を出すためにも必要であると考えられる。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

SSIは2005年4月よりスタートし、現在15学部中、10学部(法学部、文学部、経済学部、社会学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、現代福祉学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部)が参画しており、2021年度で17年が経過した。2021年度は新型コロナウイルスの影響がある中、大学の方針を踏まえた上で、ILACの授業方針と同調し、可能な限り多くの授業を対面形式で実施するように執行部として決定した。その理由として、SSI生はスポーツ活動(部活動)と学業の両立をしなければならず、そのために生活のリズムを大事にしている。対面授業を行うことで、生活習慣が整い心身ともにスポーツと学業に取り組むことができると考えている。

2021年度に掲げた年度目標は、概ね達成できた。特にアクティブラーニングについては、積極的に行った授業もあった。SSI生の特徴として、同一部内でのコミュニティが盛んである一方、他の学生とのつながりが薄い傾向が見受けられる。アクティブラーニングを導入することで、積極的に授業に取り組みかつ友人関係が広がることにつながるため、さらに導入を進めていくべき検討を進める。

重点目標であった、「カリキュラム改訂に向けての問題点把握」に関しても、学生アンケートなどをもとに運営委員会で意見徴収を行い、カリキュラム委員会で検討することができた。今後に関しては、ご指摘の内容を十分検討して、学生のニーズを把握するために、SSI固有のアンケートを実施し、新カリキュラムに反映していきたい。

また2021年度は、大学の方針によりSSIでも授業科目のスリム化を検討してきた。SSIでは2024年度から実施する新カリキュラムと同時にスリム化を進める方針となり、その一環として、いくつかの授業をオンラインとして実施し、学生のニーズをふまえてオンライン授業に関して検討することになった。SSIでは基本的に対面授業を軸に行う方針であるため、オンライン授業の導入には、さまざまな視点から検討をすすめたい。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI) は、スポーツ活動(部活動)と学業の両立を目指しており、コロナ禍においても大学の方針を踏まえたうえで対面授業を積極的に実施することで、学生の生活習慣を整え、心身の健全な育成とともにインスティテュートとしての使命を果たすよう尽力してきた点は特筆に値する。

2021年度に課題となっていた同一部活内に限定される傾向のある交友関係については、アクティブラーニングへの取り組みによって改善がみられたため、更に導入を進めるべく検討を行うとのことであり、さらなる成果に期待したい。

また、「カリキュラム改定にむけての問題点把握」に関しても、学生アンケートを実施し、その結果をカリキュラム委員会で検討しており、進展がみられる。大学の方針による授業科目スリム化調整のなか、学生のニーズに応じてオンライン授業を効果的に活用する工夫については、高く評価できる。

現状と改善点の把握が着実に進むなか、今後はSSI固有のアンケートも検討されており、新カリキュラムにおいて学生と社会のニーズがより反映された内容となることが期待できる。

卒業生の追跡調査については、自己点検・評価シートに言及がなかったが、今後実施されることに期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた、B: 改善することができなかった。」を意味する。

II 自己点検・評価

1 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

1.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度1.1①に対応

はい
<p>【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の質保証委員会は、執行部2名とSSI運営委員2名により実施した。 ・第1回質保証委員会（2021年度自己点検・評価について）2021年7月29日実施 ・第2回質保証委員会（2021年度末自己点検報告について）2022年3月9日実施

1.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>SSIにおけるCOVID-19への対応については、2020年度よりILACの基本方針に準じて対応しており、2021年度も引き続きILACと同調して対応・対策の措置を講じた。その中で、SSIにおける質保証委員会の役割としては、執行部および質保証委員と連絡を密に取り、担当授業を通じてできるだけ多くの情報を入手することを申し合わせ、その情報を運営委員会で共有した。また対面とオンラインが入り混じる授業形式の中で実施された授業の内容やその効果などについて、アンケート結果や成績をもとに検討した。上記の内容を、質保証委員会において遂行した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回質保証委員会（2021年度春学期授業改善アンケート結果）2021年7月29日実施 ・第2回質保証委員会（2021年度秋学期授業改善アンケート結果）2022年3月9日実施 ・第6回SSI運営委員会

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・質保証の観点より、毎年SSIでは独自の卒業生アンケートを取り、SSI授業に対する満足度、改善点等を把握するようにしている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・SSIによる独自のアンケートにおいては、一定程度の満足度を把握できているが、現状把握に留まり、有効に活用できていない部分もある。今後のカリキュラム変更を見据え、在学生にもアンケートを追加し、カリキュラム変更の基礎資料にしたいと考えている。

【内部質保証の評価】

<p>SSIでは、授業改善の積極的な取り組みとして、セメスターごとの授業改善アンケート結果を年2回の質保証委員会で検討している点と、COVID-19への対応措置として実施されたオンライン授業と対面授業の授業内容について情報収集をし、その効果について検討した点が評価できる。</p> <p>今後は、質保証委員会で検討した内容をどのように各授業に還元できるかについて、引き続き検討することが望まれる。</p> <p>独自のアンケート実施は評価できるが、実施回数が増えるとアンケートへの慣れや回答疲れも危惧される。したがっ</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

て、アンケート内容や実施のタイミング、方法、目的などその必要性を明確にするとともに、アンケート結果をどのように活かすかについてのさらなる検討が必要であろう。

2 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

2.1①学生 の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021年度 1.1①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

現行の SSI カリキュラムは、2015 年度に SSI カリキュラムポリシーに則り改訂を行い、運用してきた。その特徴として、限られた総コマ数のなかで、幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、教育内容を整理・集約することで戦略的に総コマ数のゆとりを確保したことが挙げられる。2016 年度第 4 回運営委員会、2017 年度第 1 回運営委員会において、SSI 生が所属する学部の主権科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう SSI 参加 10 学部 に依頼した。本件については、2021 年度も引き続き参加学部に対して、カリキュラムポリシーに沿った科目の抛出を依頼している。

SSI 生の特殊性を考慮した「スポーツ実習 I・II」については、2017 年度に具体的な内容や評価方法が議論され、2018 年度から開講した。その結果、全ての競技に取り組む SSI 生が履修できるようになり、科目の平等性が確保された。

コロナ禍において、対面授業を重視する SSI 方針がある中で、一部の授業を積極的にオンラインにした結果、受講者数が増え学習効果が上がった報告を受けている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等

- ・ SSI 履修要項・講義概要 (シラバス)
- ・ 2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録
- ・ 2017 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録
- ・ 2017 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録
- ・ 2020 年度末 SSI 運営委員会議事録

2.1②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021 年度 1.1②に対応

S : さらに改善することができた

※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

SSI 生は各学部 に本籍を置くため、各学部で行われている初年時教育 (基礎演習など) に参加している。SSI においては、基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」などが初年次教育の役割を果たしている。また 2018 年度より開講されている「オリンピック・パラリンピックを考える」については、高大接続の推進を目指して 3 つの附属高の生徒にも公開された。また入学センターと連携して、高校生・高校教員向けに、SSI 科目である「コンディショニング科学」の内容をオンラインで実施し、高大接続へ配慮した。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・高校生・高校教員向けに、SSI 科目である「コンディショニング科学」をオンラインで実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 2021 年 SSI 履修要項・講義概要 (Web シラバス)
- ・ SSI カリキュラムマップ
- ・ SSI カリキュラムポリシー
- ・ 入学センターホームページ

2.1③学生 の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021 年度 1.1③に対応

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

S : さらに改善することができた
※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。
キャリア教育に関しては、ILAC 科目 0 群に配備され、全学共通の公開科目となっている「キャリア教育プログラム」を利用しているほか、SSI 生が所属する各学部において実施されているキャリア教育も受けている。また SSI 独自に展開しているキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」、「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。これらは選択科目であるが、SSI 生の多くが受講していることが確認されている。また大学キャリアセンターと連携して、「就職ガイダンス」および「エントリーシートの書き方」など、オンラインで実施した。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・大学キャリアセンターと連携して、「就職ガイダンス」および「エントリーシートの書き方」をオンラインで実施した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年 SSI 履修要項・講義概要 (Web シラバス) ・SSI カリキュラムマップ ・SSI カリキュラムポリシー ・2021 年度秋学期 SSI 受講者一覧 ・大学キャリアセンターホームページ

2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

2.2①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021 年度 1.2①に対応

S : さらに改善することができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・例年、大学入学前の 3 月末に、SSI 新入生を対象に SSI ガイダンスを行っている。 ・SSI 生が所属する学部によって、年度当初に行われる学部・学科ガイダンスが終了後、履修方法などに関する SSI 生を対象とした個別のガイダンスを行っている。 ・クラブによっては、上記に加え、部長 (専任教員) が履修および学習に関わる指導を行っている旨の報告を受けている。 ・2022 年度については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、2021 年度同様に対面でのガイダンスを実施せず、大学が提供する「学習支援システム」を通じてオンライン (オンデマンド形式) でガイダンスを行った。 ・昨年度のガイダンス資料 (動画) に加え、より細かな案内を加えてガイダンスを行った。 ・パソコンが不慣れなどの理由で履修手続きが困難な学生に対しては、所属学部事務窓口および SSI 事務相談窓口で履修サポートを行った。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・学生がよりスムーズに履修登録ができるよう、ガイダンス資料 (動画) を追加し、ポイントを示して実施した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度 SSI 履修の手引 (https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/) ・SSI ガイダンス動画 ・SSI 生共通履修ガイダンス ・SSI 履修のポイント ・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

2.2②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021 年度 1.2②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。
<p>新年度直前の 3 月末に、保健体育センター主催のフレッシュマンオリエンテーション (zoom によるリアルタイム形式) と共催して、SSI 執行部 (運営委員長と副委員長の 2 名) が登壇し、大学における授業の必要性、学業と体育会活動の両立や履修のポイントなど、修学上の注意事項などの学習指導を行った。また年間を通じて、大学ホームページ (SSI 関連</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

ページ) を介し、動画ファイルと音声ファイル、履修の手引きなどを用いて修学上の指導を行っている。加えて、履修困難な学生に対して、SSI 事務相談窓口を設置し、履修支援を行っている。

SSI 生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ない場合がある。その際には、大学の公式書類である「競技参加による欠席願い」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンスおよび各学部学科のオリエンテーションやガイダンスにおいて指導している。

授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、「学習支援システム」を利用した資料配布や課題の設定などを行っている。また SSI 生が「学習支援システム」を有効に活用できるようにするため、必要に応じて SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。

成績不振者に対しての指導は、運営委員会および FD ミーティングで情報を共有して対応している。対象学生の所属学部においても、学部独自のルールに従って、面談や学習指導を行っている。今後はさらに関係各所と情報共有を図り、より一層学部と協力して学習のサポートができるよう検討する。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2022 年度 SSI 履修の手引 (<https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/>)
- ・SSI ガイダンス動画
- ・SSI 生共通履修ガイダンス
- ・SSI 履修のポイント
- ・各授業の学習支援システム
- ・保健体育センターフレッシュマンオリエンテーション開催通知及び資料

2.2③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。2021 年度 1.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

全ての科目で授業時間外に行うべき学習活動（準備学習など）が指示されており、その内容はシラバスを通じて周知されている。授業に使用する資料やレジュメなどを「学習支援システム」から事前に配布し、準備学習を行うよう促している。また昨年度から課題に対してのフィードバックを授業内に実施するよう依頼し、その方法は各授業のシラバスにも明記してある。全体的には、学習（予習・復習）を行うことに対して、科目担当教員が適宜、指示をしている。

学生が「学習支援システム」を活用できるよう、教員各々が担当する授業の中で「学習支援システム」の使い方を解説している。本システムを活用できていない学生が見られた場合は、SSI 事務相談窓口と執行部で連携を図り、迅速に問題解決を図る。

また授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対し、「学習支援システム」を通じて、動画を提供する授業が行われている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業の学習支援システム
- ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）

2.2④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021 年度 1.2④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。
- ・テーマを与えて、グループ・ディスカッションやディベート、グループワークなどのアクティブラーニングが実践されている授業もある。
- ・Zoom を用いたリアルタイムの授業では、ブレイクアウトルーム機能を活用している授業がある。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・「学習支援システム」などを利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている。
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の学習支援システム ・SSI履修要項・講義概要（シラバス）

2.2⑤それぞれの授業形態（講義、実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021年度1.2⑤に対応

S： さらに改善することができた
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>SSIは学生数に対して開講できる総コマ数が少ないため、受講者が教室の定員を超える場合がある。現在はSSI参加学部（10学部）からSSIカリキュラムポリシーに沿った科目の提供を受けているため、若干のゆとりが確認できている。</p> <p>実習を伴う一部の科目（トレーニング理論と実践）では、授業の質及び収容人数の観点から、同一科目を複数開講している。</p> <p>10名以下の過小人数受講者の授業もいくつか見られるため、全体的なバランスを考慮して受講者数の極端な偏りについて検討した結果、2021年度は予め過小人数受講者の授業に対して、オンライン形式を科目担当教員に依頼し実施した結果、5月時点で全ての授業が改善された。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面従業を基本方針としているSSIであるが、1時限目に開講しているいくつかの科目でオンライン授業にした結果、早朝練習がある学生や1時限の履修を控える学生が受講しやすくなったと推察され、履修者の改善が認められた。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSI履修要項・講義概要（シラバス） ・2021年度SSI履修状況一覧

2.2⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度2.2⑥に対応

はい
<p>【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスは適正に作成され、作成に関する情報はSSI執行部と事務で把握しており、執筆者に提供している。 ・SSI質保証委員が分担し、全てのシラバスのチェックを行った上で、SSI執行部が縦覧している。特に新設科目や担当者の交替があった科目や前年度からの変更点などは重点的にチェックしている。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度第6回SSI運営委員会 ・2021年度第2回質保証委員会

2.2⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度2.2⑦に対応

はい
<p>【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業の運営は原則として科目担当教員に委ねられているが、著しくシラバスから逸脱した授業などに対する学生からの意見を拾うために、学習改善アンケートの結果を執行部がチェックしている。 ・定期的にSSI主催科目担当教員によるFDミーティングを開催している。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度第3回SSI運営委員会 ・2021年度第6回SSI運営委員会

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

2.2⑧通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021年度

1.2⑥に対応

※取り組みの概要を記入。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、SSIの全ての授業がオンラインへの対応を余儀なくされたが、2021年度は、大学方針がレベル1となったため、SSIとして基本方針を対面形式に設定し、感染予防に十分配慮して授業を行なった。その一方で、急な感染拡大に対応できるよう、学生と教員が授業内において、積極的にコミュニケーションをはかり、対面形式からオンライン形式に切り替わった場合への準備をした。

工夫の一つとして、SSI執行部から学習支援システムの継続的な活用を依頼した。一例として「お知らせ」機能を通じて授業情報の連絡（対面授業かオンライン授業か）、「教材」機能を通じて授業資料の事前配布、「課題」機能を通じて課題提出などであった。

対面形式では、グループワークをする際において、マスクの徹底や学生同士の間隔、グループ人数の制限、グループ間の距離など配慮して実施した。また大学の規定によって、対面授業に参加できない学生には、ハイフレックス形式で参加できるよう配慮した。

オンライン形式は、リアルタイム型やオンデマンド型、資料配信型とし、個々の授業については担当教員の裁量に応じて実施した。オンライン授業では、自宅で聴講する学生が多く認められたため、通信環境に配慮して授業全体の構成（オンライン配信時間と課題取り組み時間）を工夫した。リアルタイム型の授業では、毎回の中で学業面や生活面、体調面について学生より聴取し、心身の健康に配慮した授業もあった。

成績評価に関しては、シラバスの「成績評価」に沿って、授業実施後に課題（リアクションペーパー、小テスト、ショートレポートなど）を課した授業が多く認められた。また、ハイフレックス形式で、オンラインで参加した学生が不利にならないよう、オフィスアワーを積極的に活用しサポートした授業もあった。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度始めに配布したSSI授業に関する資料（SSI事務より各教員に配布）
- ・2021年度第2回FDミーティング（第6回SSI運営委員会終了後実施）

2.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

2.3①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・SSI運営委員会において、全学およびSSIのGPCA平均集計表を配布している。
- ・成績評価は基本的に担当教員の裁量事項であるが、SからD・Eまでの評価割合は執行部として把握している。特にSの割合については、大学の基準を周知している。
- ・SSI運営委員会やFDミーティングにおいて、成績評価法に関する意見交換を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GPCA平均集計表（全学およびSSI）
- ・2021年度第1回FDミーティング（第3回SSI運営委員会終了後実施）
- ・2021年度第2回FDミーティング（第6回SSI運営委員会終了後実施）

2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

2.4①成績分布、進級などの状況を把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・データの把握主体：SSI執行部およびSSI運営委員

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・把握方法：学務部によって集計された全学および SSI の GPCA などに関するデータをもとに、SSI 運営委員会や FD ミーティングにおいて共有し把握している。 ・データの種類：成績上位者の分布や進級状況など
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・GPCA 平均集計表（全学および SSI） ・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

2.4②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021 年度 1.4② に対応

S： さらに改善することができた
※取り組みの概要を記入。
<p>SSI 生は各学部にも所属していると同時に、各自専門競技に特化した活動を行っている。それらの特徴を踏まえた学習方法の検討を行った結果、2018 年度より「スポーツ実習 I・II」を開講し、その受講者数を SSI の特性に応じた学習成果測定の一つの指標としている。</p> <p>また「スポーツ実習 I・II」において、受講生が事前に提出する申請書や事後に提出する報告書を参考に、学生自らが自身の成長を把握、評価できるような仕組みを導入している。</p> <p>2021 年度より、申請書及び報告書の提出を Google フォームに変更したため、個人の記述内容と受講者全員の記述内容が同時に確認できるようになった。また、報告書の各項目に字数制限（何文字以上）を設けることで、学習成果の測定がより具体的になった。</p>
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・申請書及び報告書の提出を Google フォームに変更し、報告書の各項目に字数制限を設けた（何文字以上）。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度第 4 回運営委員会議事録 ・2021 年度第 1 回運営委員会

2.4③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021 年度 1.4③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや卒業生アンケートの活用状況等。
<p>卒業を間近に控えた 4 年生を対象に「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートでは、SSI 主催科目に関するヒアリングを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。これらの結果は、執行部で集約・把握し、SSI 運営委員会において委員にフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p>
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果

2.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.5①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021 年度 1.5①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
<p>教育課程およびその内容、方法の適切性については、執行部を中心とした、主にカリキュラム委員によって定期的に点検・評価を行っている。同時に質保証委員によっても点検・評価を行っている。その他、SSI 主催科目担当教員によって、</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

定期的に FD ミーティングを行っており、カリキュラム編成や授業実施方法の改善や向上について意見交換を行っている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 2 回 FD ミーティング（第 6 回 SSI 運営委員会終了後実施）

2.5②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021 年度 1.5②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【利用方法】※箇条書きで記入。
・授業改善アンケートの結果の利用は、主に担当教員に委ねられているものの、SSI 執行部がアンケート結果をチェックし、問題点の洗い出しを行っている。
・分析結果は、SSI 運営委員会で報告し共有している。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 1 回 SSI 運営委員会
・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・SSI 主催科目については、授業を 1 時限から 3 時限に配置することで、体育会活動と修学が両立できるよう工夫している。
・主催科目のうち、必要な修得することで、コーチングアシスタント資格を取得できるカリキュラム編成となっている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・市ヶ谷、多摩で授業開講コマ数にやや違いが生じていること。
・オンデマンド授業等の活用により、SSI に所属する学生には、キャンパス間の開講コマ数に差異がでないよう改善していく必要がある。

【教育課程・学習成果の評価】

<①教育課程・教育内容に関すること (2.1) >

SI に参加する全ての学部との調整により、SSI 生が履修できる科目の幅を広げることができたことは、教育内容の充実という点において大いに評価できる。同様に「スポーツ実習 I・II」が全ての競技に取り組む SSI 生に開かれ、科目の平等性が確保されていること、また、一部の授業ではオンラインの導入により、遠征先や合宿先での受講が可能となり、受講数も増え、学習機会の確保という点で効果が見られたことは評価できる。

さらに 2021 年度には、オンラインを活用することによって、入学センターとの連携により、高校生・高校教員向けに SSI 科目「コンディショニング科学」を実施したり、キャリアセンターとの連携により就職支援に関するガイダンスや講座を開催し、高大接続とキャリア支援が積極的に行われている点は評価できる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

<②教育方法に関すること (2.2) >

SSI では、入学前の3月に新入生を対象にガイダンスを行うとともに、年度当初の所属学部・学科のガイダンス終了後には履修方法に関する個別のガイダンスを実施したり、パソコンが不慣れな学生にむけての窓口対応を併用するなど、細やかな指導は特筆に値する。

対面授業を基本方針とする一方で、学習支援システムやリアルタイム型オンライン授業などを有効活用し、10名以下の過小人数受講科目の改善もみられたことは高く評価できる。また、授業の補習・復習となる動画配信によって学習面のサポートも充実している点は特筆に値するきめ細かな受講生への配慮である。

シラバスのチェックに関しても、新設科目や担当者交替科目の場合、また、前年度からの変更点などを、SSI 質保証委員、SSI 執行部が重点的に確認している点でも評価できる。

<③学習成果・教育改善に関すること (2.3~2.5) >

SSI では、成績評価と単位認定の適正については、運営委員会および FD 活動ミーティングにおいて情報共有され、適切に把握されている。

Google フォームを活用した「スポーツ実習 I・II」の申請書および報告書の提出は、学生ポートフォリオの一部であり、学習成果を可視化する取り組みとして高く評価できる。

問題として指摘されているキャンパス間における開講コマ数の差異については、解決策が例示されているため、早期改善が見込まれる。

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度3.1①に対応

【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定に則って、運営委員会を構成し、委員長・副委員長からなる執行部を構成している。
- ・2018年度より、SSI 運営委員会内に質保証委員会を設置し、質保証委員を選出している。
→シラバスのチェック、教育課程・学習成果の検証と改善・向上について検討する。
今後、定着が見込まれるオンライン授業と対面授業に関して、学習成果などの検討を行う。
- ・2024年度に施行される新カリキュラムに向けて、2019年度にカリキュラム委員会を設置し、カリキュラム委員を選出している。
→カリキュラム全般に関する基本制度を検討する。
- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定については、現状の実態にそぐわない点があったため、2018年度から検討を行い、2020年度に改正を行った。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会の構成については、「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定」に明示している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定
- ・2018年度第1回運営委員会議事録
- ・2020年度第1回運営委員会議事録

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度3.2①に対応

はい

※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

<p>SSI カリキュラムポリシーに沿って、基礎科目、専門科目を配備しており、それに沿った教員組織が組まれている。SSI カリキュラムポリシーでは、異なる学部にも所属する教員が協同することにより、学部相互の特色を併せもった教育課程を編成することを標榜している。現在、全学におけるスポーツ（体育）に関わる専任教員 19 名（2022 年 4 月時点のデータによる）が在籍しているが、そのうち SSI 科目を担当している教員は 10 名となっている。SSI 設置当初の理念として、なるべく専任教員でまかなえるよう努力することが申し合わせている。今後、スポーツ（体育）専任教員の SSI 科目担当を促すことは更に必要であろう。そのためには、学内関連部局であるスポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携を強化していく必要があると考える。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定 ・SSI カリキュラムポリシー ・2004 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.3①組織内のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSI 執行部とカリキュラム委員および質保証委員によって、FD 活動に関する検討を定期的に行っている。 ・質保証委員会を設置し、執行部と連携を取りつつ、教育開発・学習支援センターの取り組みも踏まえた活動を進める体制を整えている。 ・全ての SSI 主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。 ・2021 年度は、昨年度に続いて、オンラインで FD ミーティングを 2 回開催した。感染予防対策を講じてのコロナ禍における対面授業について、学生の様子や授業内容（形式を含む）などについて、意見交換を行なった。
<p>【2021 年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <p>第 1 回 FD ミーティング（2021 年 7 月 29 日にオンラインで開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：コロナ禍における対面授業の進め方について ・参加人数：6 名 <p>第 2 回 FD ミーティング（2022 年 3 月 9 日にオンラインで開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：ポストコロナにおける SSI 授業のあり方について（対面授業とオンライン授業のバランスなど） ・参加人数：5 名
<p>【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度第 1 回 FD 委員会議事録（2021 年 7 月 29 日開催） ・2021 年度第 2 回 FD 委員会議事録（2022 年 3 月 9 日開催）

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>スポーツ関連の専任教員は、多岐にわたる専門分野（トレーニング科学、心理学、スポーツビジネス、コーチ学、生理学、アスレティックトレーニング学、西洋医学、東洋医学など）を携えて、それぞれの学部にも所属している。また SSI 主催科目は、カリキュラムポリシーに則り各々の専門領域を活かして配備されている。上記以外の領域については、兼任講師によってまかなわれているため、SSI 生はスポーツに関わる知識を総合的かつ包括的に修得することができ、その結果それぞれの競技に即応用可能である。更に卒業後の進路においても貢献できる科目設定となっていることが特徴である。</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> SSI 参加学部（文系学部）の専任教員が、SSI 主催授業を担当できるような体制としたい。 スポーツ健康学部との科目乗り入れについても引き続き検討していきたい。 上記を達成できるために、各学部執行部に継続的に依頼をしていく。

【教員・教員組織の評価】

<p>SSI は、当該運営委員会規定に則り執行部が設けられ、役割分担と責任の所在は明確である。教員組織については、カリキュラムポリシーに沿った適切な組織となっているものの、2024 年度から実施される新カリキュラムにむけて、学内関連部局であるスポーツ研究センターやスポーツ健康学部との更なる連携強化が強く望まれる。</p> <p>FD 活動については、FD ミーティングへの参加者が少ない点を改善するとよいだろう。SSI にかかわる教員が複数学部に跨るため日程調整が困難であることは理解できるものの、メールでの意見聴取やミーティング内容の共有等によって改善することが望まれる。</p> <p>SSI 参加学部（文系学部）に所属する専任教員による SSI 主催授業の担当といった体制づくりや、スポーツ健康学部との科目乗り入れについても引き続き検討されることを期待したい。</p>
--

4 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

4.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を把握していますか。2018年度4.1①に対応

はい
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の種類等】※箇条書きで記入。</p> <p>SSI は学部横断的な組織であるため、卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況などに関しては、所属学部の教授会決定に従っている。それらの状況（情報）は、各学部から選出されている SSI 運営委員によって把握しており、学部ごとに対応をしている。</p> <p>また全体の状況に関しては、SSI 執行部が把握しており、SSI 運営委員会で報告している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部教授会議事録 年度末開催 SSI 運営委員会議事録

4.1②学生の修学支援をどのように行っていますか。2018年度4.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
<p>※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。</p> <p>基本的には、SSI 生が所属している学部・学科によって行われているため、SSI として組織的な対応はしていないが、授業を通じて担当教員が個々に修学支援を行っている。</p> <p>SSI としては、学部ごとに選出された SSI 運営委員が中心となって、その学部に所属している SSI 生の修学支援を行っていくよう促していく。</p> <p>また、SSI 独自に集計（抽出）したアンケート結果を、学部・学科と共有して、修学支援の参考なるよう情報提供していく。</p> <p>学生アスリートのキャリア支援については、大学キャリアセンター内に、体育会担当アドバイザーを置いて対応している。</p> <p>今後は、SSI 独自のアカデミックアドバイザーについて検討を進めていく。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・大学キャリアセンターホームページ

4.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018年度4.1③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。
SSI生が所属する学部・学科において対応しているため、SSIとして組織的に対応していない。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

4.1④外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018年度4.1④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。
SSI生が所属する学部・学科において対応しているため、SSIとして組織的に対応していない。 なお、SSIでは外国人留学生の受け入れを認めていない。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・SSI入学規定

4.1⑤学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度4.1⑤に対応

S： さらに改善することができた
※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
SSI生が所属する学部・学科において対応しているため、SSIとして組織的に対応していないが、部活動ごとに指導者（監督、コーチなど）が対応している。なお各部活動の指導者は、毎年保健体育センター長名で任命しており、正式に大学に登録されている。 また、大学には各キャンパスに学生相談室が設置されており、必要に応じて利用するように情報提供している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・保健体育センター主催の部長監督会議で、各部活動指導者へ学生相談室の案内を行った。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・学生相談室ホームページ ・2021年度第1回部長・監督会議議事録

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
SSIは学部横断的な組織であり、全てのSSI生は入学時に決定した学部にも所属している。そのため、4.1.①～4.1.⑤に関

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

しては、所属学部の方針に沿って対応している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
今まで、SSI 生が所属している学部にて任せてきたが、今後 SSI として組織的にできることを検討したい。 ・アカデミックアドバイザーの導入 ・学生生活の相談など

【学生支援の評価】

SSI では、卒業・卒業保留・留年および休・退学者の状況は運営委員会で報告されている。 修学支援について組織的取り組みは行われていないが、各学部で選出された SSI 運営委員が中心となって、所属学部生に対して支援を行うよう促されている。また、キャリア支援についても大学キャリアセンターと連携を図り、体育会担当アドバイザーを設置して対応している点でも評価できる。 今後は、SSI 独自のアカデミックアドバイザー制度や学生生活相談体制が検討されるとのことで、よりきめ細かな学生支援に期待したい。

5 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

5.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 5.1①に
 対応

S : さらに改善することができた
※取り組み概要を記入。
・関連部局（HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会社会人学び直し検討チームなど）と連携することで、履修証明プログラムを実施している。 ・2021 年度は、入学センターと連携して、スポーツ関連学部を志願する高校生への出前授業を実施した。 【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 ・入学センターからの依頼により、スポーツ関連学部を志願する高校生への出前授業をオンラインにより実施した。 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI ホームページ

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
SSI 生はそれぞれのスポーツ活動において、かなり高い競技成績を維持している。また現在は 38 の体育会が存在する。これらの資源から得られた情報やデータなどを広く社会に還元できるように努めている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

・特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

SSI は、履修証明プログラムに協力している。2021 年度の実績が 0 というのは残念であるが、コロナ禍ゆえ仕方がないだろう。引き続き、オンライン授業の導入や魅力ある内容を検討されるとのことなので期待したい。

社会貢献として、スポーツ関連学部を志願する高校生へのオンライン授業は評価できる。また、それぞれのスポーツ活動において、高い競技成績を維持している SSI 生の活躍を知らしめること自体が社会貢献である。38 の体育会から得られた情報やデータ等を社会に還元するよう、今後とも努めることが望まれる。

今後、SSI 教員の多岐にわたる専門分野を活かしたセミナーやシンポジウムなどのスポーツ文化イベントを開催することによって、履修証明プログラムの社会的認知度や関心が高まることに期待したい。

6 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

6.1①運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018 年度 6.1①に対応

はい

※概要を記入。

「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定」に則って、委員長、副委員長をはじめとする各委員が配備され、インスティテュートを適切に運営している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【大学運営・財務の評価】

「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定」に則って委員長、副委員長をはじめとする各委員が配備され、適切な運営が行われている。

Ⅲ 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	新型コロナウイルス（変異ウイルスを含む）によって、オンラインによる授業形態が急速に導入されたため、これまで年度に 1 回開催していた質保証委員会を年 2 回に増やし、オンライン授業の質保証に関しても検証する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

	達成指標	春・秋学期中に1回、年度末にも1回、質保証委員会を開催し、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	20年度につづき、質保証委員を2名選出し、運営委員会の開催に合わせて、適宜質保証委員会およびカリキュラム委員会を開催した。審議事項としては、新型コロナによる授業形態と学習効果の検証を中心に、学生アンケートの結果から、現状把握とカリキュラム再編への検討を行った。また、SSI 主催科目のシラバスについて、質保証委員が第三者的立場より、適切な記載がなされているか確認を行った。
	改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	1. 20年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として抛出してもらえるよう、各学部に働きかける。 2. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、その礎となる問題点・変更点などを抽出する。
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として抛出してもらえるよう、運営委員会を通じて各学部のSSI 運営委員に依頼する。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴取を行い、カリキュラム委員会で検討した後、運営委員会でも共有する。
2	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	運営委員会において、各学部から選出されている委員に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう依頼した結果、20年度と同程度の科目や科目数の提供を受けることができた。 新カリキュラムに向けての検討については、年末の運営委員会終了後にカリキュラム委員会を開催し、24年度改定を目指す新カリキュラムについて、大まかな方向性を検討した。しかし、その結果は、まだ時期早尚であったため、運営委員会での報告までには至らなかった。
	改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	1. アクティブラーニング型の授業を増やし、その効果を検証する。 2. 大学が許可する対面授業においてSSI 独自の科目を選定し、実施する。
	達成指標	1. 年度末に開催するSSI 運営委員会および質保証委員会において、アクティブラーニングの実施状況を把握し、その効果について協議する。 2. SSI 基礎科目（必修7科目）を独自に対面授業の対象とし、実施する。
3	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	アクティブラーニングについては、比較的受講者の少ない授業において実施された報告を受けている。対面形式で開講していた科目であったが、グループワークを行い、お互いの意見を共有することで、多くの効果を得たことがアンケートなどで確認されている。今後の課題としては、受講生が多い授業やオンラインでの授業でアクティブラーニングが実施可能であるか、検討していきたい。 またSSI が主催する科目に関して、対面授業を基本に各担当講師に依頼した結果、感染対策に留意し、必修7科目を含む多くの授業が対面形式で実施された。
	改善策	—

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	昨年度につづき、学生を対象としたアンケートを実施し、以下について共有する。 ・SSI 生の学習状況を把握する。 ・SSI 学生の学習成果（成績）を把握する。	
	達成指標	大学が実施するアンケートを活用して、SSI 生の学習状況を把握する。学習成果（成績）については、所属学部と連携し、必要に応じて個別に対応する。また各種アンケートの結果は、年度末に開催する SSI 運営委員会において共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		大学が実施するアンケート結果により、SSI 生の学習状況を把握できた。そのアンケート内容は運営委員会で報告し、学部から選出されている運営委員と共有している。また成績に関しては、所属学部独自の基準で一般学生と同様に指導いただいている。しかし、SSI として個々の成績に関する詳細を把握できていないため、さらに各学部と連携を深める必要がある。	
改善策	—		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。	
	年度目標	1. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に対し、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。	
	達成指標	1. スポーツ研究センター執行部と連携を図り、引き続き協力を要請する。 2. SSI 執行部を中心に個々の教員に依頼する。 3. 昨年度と同様、オンライン授業に関する相談窓口を SSI 事務局内に設置し、各種情報提供および教員個々の質問や相談に応じる。また得られた情報を執行部内で適宜共有・検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		授業運営にあたって、必要な事案が生じた場合、即座にスポーツ研究センターに協力を要請できる体制を構築できた。またスポーツ健康学部の教員にも外部講師として登壇いただくことができた。 オンライン授業に関しての相談は、SSI 事務局を窓口として随時受付を行い、対応することができた。またその内容は執行部と共有できている。	
改善策	—		
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。	
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応・実施にあたって、必要な情報を適宜発信する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		4. 学生がかかえる様々な問題に対応するために、学生相談室と連携をする。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 大学キャリアセンターと連携して、SSI 学生に対して情報発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携して、SSI 学生に対して情報発信する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 S
		理由 年度初めの運営委員会において、学生アンケートの結果を共有し、委員と意見交換を行い必要な対策を講じている。 学生のキャリア教育については、アスリートキャリア論（選択科目）を配置して対応している。加えて大学キャリアセンターに体育会専用の相談員がいるため、必要に応じて紹介し相互に連携を図っている。 また学生相談室について専任教員が担当する授業内で紹介し、SSI 生の相談について対応している。
		改善策 —
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	22 年度以降の履修証明プログラム実施のために、リモート授業の開講の増加を検討する。
	達成指標	引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
		理由 昨年同様に履修証明プログラムに取り組んでいるが、今年度は受講生の参加がなかった。新型コロナウイルスの影響が考えられるため、オンライン授業の導入や引き続き魅力ある内容を検討していく。
改善策 —		
<p>【重点目標】 2024 年を目標に、本インスティテュートの抜本的なカリキュラム改訂を行う予定である。発足して以来、初めてのカリキュラム変更となるため、現状の問題点を適切に把握し、カリキュラムの礎となる概要を策定する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 カリキュラム委員会を軸として、カリキュラム改定委員会（仮称）を立ち上げ、カリキュラム改定に向けたロードマップを作成する。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 20 年度は全ての授業が新型コロナによりオンラインで実施されたが、本年度においては一部の授業を除いて対面授業で実施することができた。SSI はインスティテュートとして位置付けられており、SSI 生はそれぞれ異なる学部にも所属しているため、所属学部との連携は欠くことができない。また卒業単位の 1/3 程度を SSI 科目で修得するため、その内容については、執行部を中心に内部組織（質保証委員会やカリキュラム委員会）を活用（連携）して、進めなければならない。本年度もその体制は確立され機能している。一方で、学習成果に関する件で、成果の把握を大学が実施するアンケートを活用し、その結果により全体的、個別的に確認および把握できているが、より SSI 生の特徴を知るために、今以上に独自質問を充実させることなどを目指す。また近年、大学の使命として社会貢献・連携が求められている。SSI においても例外ではなく、むしろ積極的に進めることが望ましい。現在 SSI では、大学が実施している履修証明プログラムに参画している。しかし、新型コロナウイルスの影響もあってか、本年度は受講者がいなかった。新型コロナが収束したとしても、またいつ再燃するかわからない。そこで SSI としては、より各科目の内容を充実させ、オンライン形式でも受講できるようにするなど、さらに検討を進める必要があると考える。</p>		

【2022 年度目標の達成状況に関する大学評価】

SSI は、質保証の点において委員会を春・秋学期中および年度末にも実施することで、対面授業だけでなく COVID-19 によって導入されたオンライン授業の質保証に関しても検証を行い、年度目標を達成したと言える。

教育内容に関しては、各学部が主催する科目から SSI 専門科目として拠出される科目を前年度と同等程度確保するという目標が達成された。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

教員組織の点では、スポーツ研究センターとスポーツ健康学部両部局との連携強化によって、年度目標は達成されている。

「重点目標」に掲げられたカリキュラム改定への準備については、教員への意見聴取やカリキュラム委員会における検討が進んでいる点で一定の評価はできる。ただし、時期尚早との理由から検討結果を運営委員会で報告するには至っていないと記載されている。また、目標達成施策として掲げられたカリキュラム改定にむけたロードマップについても、そして、カリキュラム見直しそのものについても「年度目標達成状況総括」には言及されていない。2024年度に実施予定のカリキュラム改定は、SSIにとって初めてのカリキュラム変更であり、引き続きこれまでの課題を精査のうえ、新カリキュラムの骨子を策定すべく、着実な進展に期待したい。

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	SSI 質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。
	年度目標	シラバスチェックを担う第三者委員会と新カリキュラム編成を担うカリキュラム委員会を適宜開催する。
	達成指標	少なくとも、両委員会を各学期中に一度、年度末に一度開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	1. 新カリキュラムに関係するポリシーを策定する。 2. 各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。
	年度目標	1. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、カリキュラムポリシーを更新する。 2. 新カリキュラムで開講する科目の候補をまとめる。
	達成指標	1. 現行のカリキュラムポリシーを新カリキュラムに合わせて更新する。 2. 新たなカリキュラムポリシーに準じて、新カリキュラムの基幹科目を策定する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	1. SSI 生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI 生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。
	年度目標	1. カリキュラム変更と合わせ、オンデマンド授業開講の可能性について検討する。 2. 同一名称科目の授業計画やオンラインを用いた市ヶ谷・多摩共同開講の可能性について検討する。 3. アクティブラーニングを実践している科目担当者よりノウハウを共有してもらおう。
	達成指標	1. オンデマンド授業の長所と短所について精査する。 2. FD ミーティングを開催して情報共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. SSI 生の学習現状について把握する。 2. SSI 生の競技・日常生活においてより実用的な学習内容を検討する。
	年度目標	SSI 生を対象としたアンケートを実施して、SSI 生の学習状況・成果を把握し、一般学生と比較する。
	達成指標	1. 大学が実施しているアンケートを利用し、SSI 生に関する箇所（結果）を抽出して共有する。 2. SSI に参加している各学部から SSI 生の GPA を共有してもらおう。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。
	年度目標	1. 新カリキュラムについて運営委員会で議題に挙げ、委員から広く意見を募る。 2. カリキュラム委員会を適宜開催し、新カリキュラムの全容を具体化していく。 3. SSI と連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		4. オンライン授業に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標	1. 各運営委員会で新カリキュラムに関する議題を設定する。 2. カリキュラム委員会を定期（各学期1回）開催する。追加で適宜開催し、新カリキュラムに関する各種情報を提供してもらう。 3. スポーツ研究センター運営委員会に参加して連携を要請する。 4. 数名の教員にヒアリングを行い、オンライン授業に関する情報を得る。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSIに参加している各学部や体育会各部と連携を深める。 2. SSI生を対象としたアンケートを充実させ、SSI生の学習・競技活動の実態を把握する。 3. SSI生に向けた新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスを充実させる。 4. SSI生のキャリア支援について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. SSI生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. SSI生のキャリア支援について、関係部局と情報を交換する。 3. アカデミックアドバイザーを設置し、SSI生の修学を支援する。
	達成指標	1. 運営委員会において、SSI生を対象としたアンケートの結果を共有する。 2. キャリアセンターと連携し、SSI生に対して情報を発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携し、SSI学生に対して情報を発信する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	SSIが所有する資源を有効活用する方策について検討する。
	年度目標	1. オンライン授業あるいは多摩・小金井キャンパスでの開講について検討する。 2. スポーツ関連学部に関心のある高校生や高校に対して出前授業を行う。
	達成指標	1. 引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。 2. 入学センターから情報を得る。
<p>【重点目標】 2024年度にカリキュラム改訂を実施する予定である。発足以来、初めてのカリキュラム変更となるため、これまでの課題を踏まえ、新カリキュラムの骨子を策定する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 現行のカリキュラムポリシーを見直し、現状と展望に即したカリキュラムポリシーを策定する。</p>		

【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

2024年度カリキュラム改定にむけて、これまでの課題を踏まえた新たなカリキュラムポリシーの策定は「重点目標」として適切である。また、今までの教育目標や現行のカリキュラムが抱える課題、オンライン授業の導入による学習環境の大きな変化、学生のニーズなどを十分検討する機会が設けられるよう教育課程・学習成果に関する年度目標が設定されている。そのなかで、オンラインを活用した市ヶ谷・多摩キャンパス協同開講授業やオンデマンド授業についての検討は、SSI生にとってより充実した学びの機会を提供する可能性としてとくに注目される目標であろう。

一方、社会貢献・社会連携については「SSIが所有する資源を有効活用する方策について検討する」とあるが、卒業生との関係もSSIの魅力的な「資源」と考え、卒業後の追跡調査や卒業生を対象としたアンケートなども中期目標として期待したい。

【大学評価総評】

SSIは、2024年度に実施する抜本的なカリキュラム改革にむけて、カリキュラム委員会を立ち上げ、関連部局と丁寧に関わりながら準備を進めている。2022年度の「重点目標」は新カリキュラムポリシーの策定である。この作業が、これまでの教育目標やカリキュラム体系の課題、学生の達成度を検証したうえで進められることの重要性は、「2021年度自己点検・評価報告書」ですでに指摘されておりおろである。これを受けて、学生へ独自のアンケートを実施したことは高く評価できる。2022年度は、このアンケート結果を踏まえて、現時点での学生のニーズと将来求められることといった、中・長期的展望のバランスを備えた新たなカリキュラムポリシーの具体化がなされるであろう。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

本インスティテュートは、SSI 生に対して修学支援の面でもきめ細かな対応を行っており、今後も独自の修学支援アドバイザー制度を検討しており大いに評価できるが、他方で教職員の負担が過剰になる恐れも否めない。COVID-19 による厳しい行動制限を経て日常生活・学習環境の変化を経験するなか、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の影響もあり、一般的にも「スポーツの力」は再認識された。文武両道を目指し直向きに精進する SSI 生の姿は、一般の学生にとって良い刺激となり、SSI 生にとっても期待と応援を受ける好循環が生じる可能性がある。その意味で SSI 生（学生アスリート）について、もっと学内での認知度や関心を高め、学生同士が自主的かつ組織的に支援する取り組みを関連学部や学生センターなどと連携して考えてもよいだろう。それによって教職員の負担増を抑えつつ、部活外での交流が薄いと指摘された SSI 生と一般学生との交流を促し、互いから学ぶ機会を得る環境作りにも期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

連帯社会インスティテュート

学部基礎情報

<p>【理念・目的】(2018年度自己点検・評価報告書より)</p> <p>法政大学の「自由と進歩」という建学の精神を基礎とし、法政大学憲章の約束する「自由を生き抜く実践知」を身につけた、次に示すような人材を育成することを目標とする。</p>
<p>【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的(教育目標)】※学則別表(V)</p> <p>連帯社会インスティテュートはNPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムの3つのプログラムから構成されている。大学院生にはそれぞれのプログラムで各組織について深く学ぶとともに、プログラム横断的にも学ぶことを求めている。そうした教育を通じて、法政大学の「自由と進歩」という建学の精神を基礎とし、法政大学憲章の約束する「自由を生き抜く実践知」を身につけた、次に示すような人材を育成することを目標とする。</p> <p>1. グローバル化や競争激化の中で分断されつつある個人や組織を繋ぐ「連帯社会」を構築することを自らの使命と考える。</p> <p>2. 「連帯社会」を構成し、連帯による公益の実践を目指すNPO/NGOや社会的企業、種々の協同組合、労働組合の持続的発展を担うことができる。</p> <p>3. それぞれの組織において「連帯社会」を構築するために必要となる政策を構想、立案、実現できる。</p>
<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p>修士課程 修士(学術)</p> <p>修士課程に2年間以上在学し、36単位を修得し、修士論文を執筆し、以下に示す水準に達した学生に対して修士(学術)を授与する。</p> <p>DP1. NPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合などに求められる社会的役割を認識している。</p> <p>DP2. 連帯社会構築のための具体的政策を構想する研究能力を獲得している。</p> <p>DP3. 実践の場において高度の専門性を発揮しうる能力を獲得している。</p>
<p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>本インスティテュートの教育理念は、各プログラムにおいて連帯社会の構築に求められる専門領域の学習を基軸に据えて、研究を推進し、高度に専門的な知識を備えた実践的な人材を輩出することである。こうした理念を実現するため、以下の方針に沿ったカリキュラムを編成している。</p> <p>①学生全員に対しNPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合に関する幅広い知識を獲得させるため、それぞれの概論を専門基礎科目として配置する。</p> <p>また「連帯社会とサードセクター」というオムニバス授業を配置し、それぞれの分野で活躍する専門家から「連帯社会」の実践について学習する機会を設ける。</p> <p>②NPO、協同組合、労働組合のプログラムごとに、より深い知識を獲得させるため選択必修科目を設ける。</p> <p>③各プログラムに関連した選択科目を配置し、学生の志向に応じた履修モデルを提示する。</p> <p>④修士論文の構想、執筆を支援するためプログラム横断的に「研究報告」を年に2回行い、教員全体で集团的に指導する。</p>
<p>【アドミッション・ポリシー】</p> <p>本インスティテュートは連帯社会の構築に強い意欲を持ち、NPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合のそれぞれについて幅広い関心を抱く社会人を受け入れる。</p> <p>入学者を選考するために、秋と春に各1回、面接試験を行っている。面接試験では各プログラムにおける学習に必要な基礎知識を確認するとともに、事前に提出された研究計画書に基づいて文章の構成力、研究を進める上での企画力、構想力などを見極める。</p>

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

【2021年度大学評価結果総評】(参考)

連帯社会インスティテュートでは、コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を設けている点は評価できる。カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われ、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導も適切に行われていると評価できるが、学習成果の測定指標の導入については検討が望まれる。

大学院教育のグローバル化推進にあたり、COVID-19 感染拡大により外国人講師の招聘が困難だったとされているが、オンラインやオンデマンドなどのシステムの利用により、活性化が可能だと考えられる。COVID-19 への対応として、オンライン授業を導入し、様々な工夫をした点は評価できるので、学生へのアンケートやインタビュー等によりその効果を検証していただきたい。研究科として学生支援や学習環境、教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策については、学習支援やオンラインでの指導方法等について、運営委員会、教務委員会、また、連帯社会研究交流センターとの会等議において議論が行われていることがインタビューにより確認できた。今後の対応としては、議論等を行った場合には、議事録として残しておく必要があると考えられる。

重点目標の「学生支援における学習支援」では、昨年度から引き継いだ施策とともに、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入の検討が加えられており、社会人学生に対し有効な施策となることが期待できる。

なお、自己点検・評価シートでの自己点検において「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020年度目標が概ね達成されていた場合についても今後の発展のために必要であると考えられる。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学習成果の測定指標を策定に向け、2022年度中期計画においても検討を重ねる。移動を伴わないため説明が不足していたが、オンラインでの海外ゲストの招聘は積極的にこなっており、加速している。オンライン授業の効果検証については、インスティテュート独自の学生アンケートへの項目追加を検討するとともに、全学アンケートからのフィードバックのほか、検証のための措置を講じたい。議事録等への対応については、現行では運営委員会のみ議事録を作成しているが、今後はそれ以外に開催される臨時的会議についても作成するよう努める。「問題点」「長所・特色」については、今後議論を重ねた上で、学生募集等今後の外部に向けたアピールとしても強く打ち出せるような「長所・特色」を打ち出すとともに、定期的な改善を進めていく上でも「問題点」をしっかりと抽出できるよう努める。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートは、学習成果の測定指標の策定について、「2022年度中期計画においても検討を重ねる」としており、今年度中に決定されることが期待される。オンラインによる海外ゲストの招聘及び授業は着実に実行されており、評価できる。オンライン授業の効果検証については、インスティテュート独自の学生アンケートへの項目の追加、アンケートからのフィードバック及び検証のための措置を講じる計画であり、方法の具体化等、引き続き検討が望まれる。各種委員会における議事録の作成については、運営委員会以外の臨時的会議についても作成することが努力目標とされているが、即時実施可能と思われることから、早期の実現が望まれる。2021年度自己点検・評価シートにおいて「問題点」及び「長所・短所」が挙げられていなかった点については、「理念・目的」には「長所・特色」が総括的に記載されているが、「問題点」には今のところ記載がない。インスティテュートとしては、今後これらに関する議論を重ねて「しっかりと抽出できるよう努める」としており、引き続き不断の検討が望まれる。

II 自己点検・評価**1 理念・目的**

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①研究科(専攻)の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

・連帯社会インスティテュートは、2015年に法政大学と日本労働組合総連合（連合）および（公財）教育文化協会の連携により設置された。設置準備の時点で法政大学の理念を軸にした3つのポリシー作成など、教育目標の基礎に大学の理念・目的をおいている。検証にあたっては、インスティテュートのプログラム担当教員3名のほか、政治学研究科および公共政策研究科の教員を合わせ、計7名による運営委員会を毎月開催している。

・また、修士論文の構想、内容を発表する「研究報告」を1年次、2年次にそれぞれ2回行っており、そこで私たちの設定した理念・目的を学生たちが理解しているかどうか、逆に、現在の理念・目的が適切かどうかを論議している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①研究科（専攻）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②研究科（専攻）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・教育理念・目的を記した資料（「教育目標と3つのポリシー」）を教員で共有しており、また学生に対しては新入生オリエンテーションの際に配布している。その他、大学のウェブサイトとは別に、連帯社会研究交流センターのサイトを運営し、本インスティテュートの教育・研究に関わる情報を掲載、広く社会に向けて公表している。また、インスティテュートの概要を示したカラー刷りパンフレットを製作し、関係各所を通して配布するとともに、ウェブサイト経由でもPDFファイルとしてダウンロードできるようにしている。

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【理念・目的の評価】

連帯社会インスティテュートは、2015年の設置に際して設置準備の段階から本学の理念を軸にした3つのポリシーを掲げ、教育目標の基礎に大学の理念・目的をおいている。また、その検証については、インスティテュートのプログラム担当教員3名と政治学研究科及び公共政策研究科の教員の計7名による運営委員会を毎月開催していることから、インスティテュートの理念・目的は本学の理念・目的を踏まえて設定され、その適切性に対する検証も十分であるといえる。また、インスティテュートの理念・目的は、1年次、2年次に2回ずつ開催している「研究報告」を通して、学生がこれを理解しているか、また理念・目的の適切性について論議することによって確認されている。

2 内部質保証

（1）点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

いいえ

【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※簡条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・連帯社会インスティテュートの専任教員はわずかに3人であり、特別委員会をわざわざ設けなくても、授業の質をチェックすることはできている。インスティテュートが提供する科目（基本科目、必修科目、選択必修科目）の全てに関して授業アンケート（選択式と記述式）を行い、結果について専任教員全員で共有し、かつ兼任講師に関しては選択式結果の全てと、担当科目についての記述式結果をフィードバックしている。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。**新規**

※取り組みの概要を記入。

・内部質保証推進組織ではなく、専任教員3名で密な情報共有を図っている。具体的には、大学本部の対応・対策措置等が更新された際にインスティテュートとして選択できる対応策について適宜メール等も用いながら協議の上、合意形成を図っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【内部質保証の評価】

連帯社会インスティテュートの専任教員は3人であり、質保証委員会等を設置することなく授業の質をチェックすることは可能としており、実際にすべての科目について授業アンケートを実施し、結果について専任教員全員で共有するとともに、兼任講師に対してはアンケート結果をフードバックしていることから、質保証に関する委員会を設置しないことは不適切とはいえない。また、同様の理由により、COVID-19 への対応・対策も不十分とはいえない。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。**2018年度3.1①に対応**

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。**2018年度3.2①に対応**

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。**2018年度3.2②に対応**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

はい
【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。 ・「教育目標と3つのポリシー」 http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/rentai/rentaishakai/rentai_policy.html

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

2018年度3.2③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。 ・上述の通り、所属教員は3名であるため、検証組織を別途設けてはならず、適宜3教員で情報共有と議論を行いながら検証を重ねている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに準拠し、それぞれの適切性や関連を考慮した上で科目改変を行い、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを改訂した。 具体的には、協同組合プログラムの「協同組合とステークホルダー参加」および「協同組合・NPOの会計」（それぞれ2単位）を「協同組合連携論」「社会構想学」「協同組合・NPOの会計実務」「協同組合・NPOの法実務」（それぞれ1単位）の4科目に再編し、2022年度新規科目提供に至った。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・カリキュラム・マップ、カリキュラムツリー

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。2021年度1.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 ・コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために「連帯社会とサードセクター」を設けている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし

3.3②専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。2021年度1.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 ・労働組合、協同組合、NPOの基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPOを理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。これに加えて、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供してきた。2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べることになった。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス

3.3③大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。2021年度1.1③に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。
・連帯社会、サードセクターについての海外の研究者や実務家が来日した際には、連帯社会研究交流センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生が受講できるようにしている。2020年度は、新型コロナウイルスの感染により来日がほとんどなかったが、2019年度にはアメリカのNPOの弁護士（11月）とソーシャルワーカー（12月）を講師として招き、セミナーを実施するなどの実績をもっている（2020年よりCOVID-19の影響で他国からの招聘は困難となっている）。また、「比較社会労働運動史」や「NPO論Ⅰ」、「NPO論Ⅱ」「NPOとソーシャルチェンジ」などにおいて、グローバルな視点からの授業が提供されている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・言及された各科目のシラバスを参照。

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。
・2016年度まで新生生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定、2018年度からこれを活用して学生の履修指導を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー

3.4②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。2021年度1.2②に対応

はい
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。
・新生生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という2種類の資料を配布し、説明している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・「修士論文提出までのタイムスケジュール」 ・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」

3.4③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。2021年度1.2③に対応

はい
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。
・1年次におけるゼミ、2年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。さらに、1年次、2年次にそれぞれ「研究報告」を年2回（春と秋）開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1年生、2年生ともに、また春秋ともに、いずれも授業の2コマ相当の時間を確保している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・特になし

3.4④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4④に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・3人の専任教員がシラバスチェックを行っている。
- ・選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も参考にしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「2021年度授業改善のためのアンケート」

3.4⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑤に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・上記の独自授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も表明されており、それを参考にし検証している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「2021年度授業改善のためのアンケート」

3.4⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021年度1.2④に対応

※取り組みの概要を記入。

- ・COVID-19への対応・対策として、オンライン授業を導入しているが、質問や意見を言いやすいようにするためチャット機能を活用している。また、学生同士で少人数での議論ができるようにするため、ブレイクアウトルームなどの機能も用いるなどの工夫をしている。効果については、検証していないので、不明。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。

- ・成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

3.5②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。2021年度1.3②に対応

はい

※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。
【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。
・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」。

3.5③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。
・学生は10人程度と少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。また、運営委員会に学位授与者のリストを提出、確認している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

3.5④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。2021年度1.3④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう手厚い個別指導を含め教育を行っている。
・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。
・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

3.5⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。2021年度1.3⑤に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※責任体制および手続き等の概要を記入。
・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つように、基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。
・各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。
・各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。
・修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し、3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

3.5⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。2021年度1.3⑥に対応

はい
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。
・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は、通常、推薦組織が所属組織になっており、修了後は所属組織に戻る。就職・転職・進学等、将来のキャリアや長期展望については各教員で学生から個別に意向を確認し、必要に応じてアドバイス等を行っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・NPOプログラムの学生は、推薦制度に基づく選抜ではないが、社会人学生の場合は、現職に留任される者が多い。2020年度には、18年度に本学学部卒業直後の学生の入学があったが、進学指導の要望はなく、本人自らが就職先を探し、就職した。就職・転職・進学等は本人の意向を確認した上で必要に応じて支援措置を講じている。また、各プログラムとも必要に応じて、運営委員会で情報として共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度 1.4①
に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

・学習成果を把握するために、教務委員会において、以下について検討を行った。
・学習支援に関連して、プログラムごとにニーズ把握を行うこと。
・教務委員会において、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための具体的な方法などについて検討すること。
・ただし、これらについて、具体化に至っていない。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

3.6②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度 1.4②に対応

B： 改善することができなかった

※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。

・提供科目について独自のアンケート調査のほか、卒業生に対して意見聴取を実施し、報告書『連合大学院-6年間の総括』を作成、一般配布している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・連帯社会研究交流センターのウェブサイトにて、『連合大学院-6年間の総括』を公開。ダウンロードできる状態にしている。

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021年度 1.5①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設定を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「2021 年度授業改善のためのアンケート」。

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021 年度 1.5②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【利用方法】※取り組みの概要を記入。

・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、記述式と選択式の設定を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は、運営委員会に提示し、授業改善に向けての資料として有効活用している。また、運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）に対しては、全体の調査結果（選択式の設定）と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「2021 年度授業改善のためのアンケート」。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

連帯社会インスティテュートは、インスティテュートとして修得すべき学習成果及び諸要件を明示した学位授与方針は適切に設定されており、また教育課程の編成・実施方針は設定されている。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の学生への周知は適切に行われており、HP で公表されている。教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性については 3 人の専任教員で情報共有し議論され検証が行われている。2021 年度には教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに準拠し、科目改変を行い、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの改訂が行われた。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

連帯社会インスティテュートでは、「労働組合プログラム」、「協同組合プログラム」、及び「NPO プログラム」を設置しており、専門領域の学習が提供されている。2018 年度からは各プログラムを横断した「サードセクター協働論」が開講され、労働組合、協同組合、NPO の 3 者について学ぶことができていた。2020 年度はコロナ禍のためできなかったが、2019 年度には、連帯社会やサードセクターについての海外の研究者や実務家を招き特別講演が実施されている。

<③教育方法に関すること (3.4) >

連帯社会インスティテュートでは、2017 年度にカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーを策定し、2018 年度からこれらを活用して学生の履修指導を行っている。研究指導計画については、新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」、及び「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を学生に配布し、説明を行って

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

いる。また、1年次、2年次に各2回の「研究報告」を開催し、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っている。シラバスについては3人の専任教員によってチェックが行われ、また授業評価アンケートによってシラバスに関する学生の意見を聴取し、授業がシラバスに沿って行われていることを検証している。COVID-19への対応・対策としては、オンライン授業を実施するとともに、チャット機能、ブレイクアウトルーム機能を活用することによって議論しやすい環境を作っている。効果については検証していないため不明としているが、取り組み自体は十分であるといえる。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7) >

連帯社会インスティテュートは10人の学生に対して専任教員3人と兼任教員4名の体制で教育及び学位論文指導を行っており、かつ授業内容等の教育活動に関する情報を共有することによって、単位認定及び学位論文審査及び学位の水準を保つ取り組みは適切に行われている。また、研究報告を計4回開催することによって、学生の研究テーマを3人に専任教員が的確に把握し、共同で責任を持つ体制を整えている。

学習成果の測定指標については現在教務委員会で検討が行われているが、今後、可能な範囲で少しずつ具体化を進めていただきたい。そもそも、独自の授業改善アンケートを作成・実施し、アンケート結果を運営委員会及び兼任教員にフィードバックして活用しているので、その過程で学習成果の把握は自ずと出来ているはずであり、また、10名の学生に対して専任3名を含む7名の教員による手厚い論文指導が出来ているので、修士論文のクオリティ自体が成果の指標といえるはずであるから、B評価はきびしすぎる自己評価であると思われる。「学習成果の測定指標」については柔軟に捉えて頂きたい。例えば、本インスティテュートのカリキュラムの特長の一つ「連帯社会サードセクター」に焦点をあてて、学生の授業アンケートにさらに記述式の質問項目を追加するような工夫をしてみると、「連帯」のディプロマポリシーに照らして、好適な成果指標の一つとなり得るのではないかと思量する。

以上より、学習成果・教育改善については適切に対応しているといえる。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018

年度4.1①に対応

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。2018年度4.2①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

アドミッション・ポリシーを設定し、連帯社会インスティテュートが求める社会人像を明示している。それを踏まえて、労働組合プログラム、協同組合プログラムについては(公財)教育文化協会が指定する団体に推薦を依頼している。団体推薦で受験する学生と社会人一般応募で受験する学生の中から研究計画書および論文（またはそれに代わる文章）の審査、面接試験結果を踏まえて、入学者を選抜している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「教育目標と3つのポリシー」

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度4.3①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・労働組合プログラム、協同組合プログラムを選択する団体推薦の学生については定員を確保する努力をしており、定員をおおむね充足できている。ただNPOプログラム、社会人一般入試については年によってバラツキが大きく、悩みの種である。科目等履修制度を活用して、本インスティテュートに関心を持ってもらうよう工夫をしているが、それ以外にもなんらかの対策を講じる必要があると考えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.4①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

・運営委員会、進路相談会、面接試験時などでの議論を通じて検証を行い、その結果を次年度に活かすよう努めている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【学生の受け入れの評価】

連帯社会インスティテュートは、アドミッション・ポリシーに基づいて、求める社会人像を明示している。また、労働組合プログラム、協同組合プログラムについては、公益財団法人教育文化協会が指定する団体に推薦を依頼しており、団体推薦及び一般応募によって募集を行っている。選抜方法としては、研究計画書及び論文（またはそれに変わる文書）の審査と面接試験を実施している。定員についてはおおむね充足できているものの、社会人一般入試については年によってバラツキがあり、科目等履修制度を活用するなどの対策を講じている。

以上により、学生の受け入れに対する取り組みについては不十分とはいえないが、定員の安定的充足に対しては、シートに記述された具体策をもとに、引き続き検討されたい。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1①に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【インスティテュート執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。
・連帯社会インスティテュート運営委員会：専任教員3人、専任教員4人で構成 運営委員長 柏木宏、副委員長 伊丹謙太郎、委員 中村圭介 運営委員長は運営委員会を開催し、審議を司る。副委員長は委員長を補佐する。
【明示方法】※箇条書きで記入。
・法政大学大学院連帯社会インスティテュート運営委員会規程
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・法政大学大学院連帯社会インスティテュート運営委員会規程

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい
※カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。
・労働組合プログラム、協同組合プログラム、NPOプログラムの基本科目、必修科目は専任教員が担当し、選択必修科目に関しては、専任教員に加え、当該科目にふさわしい本学教員、兼任講師を配置している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・シラバス

5.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.3①研究科（専攻）内の独自のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。
・運営委員会を通してFD活動を実施している。
【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。
・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。2020年度は、9月と2月に実施した。これらの内容については、随時、教務委員会に報告し、フィードバックを受けている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・「2020年度授業改善のためのアンケート」

5.3②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
・労働組合、協同組合、NPOの3つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。それぞれのプログラムの専任教員はひとりずつなので、活動の活性化や資質向上については、各教員の判断に任せている。ただし、授業のひとつ「連帯社会とサードセクター」は、事前予約制により一般の聴講を認めており、「社会貢献活動」の一環といえる。また、この授業は、現場の第一線で活躍している人々から講義を受けるもので、それを通じて、研究活動に現場の声を反映させていく一助になっている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【教員・教員組織の評価】

連帯社会インスティテュートの運営委員会は、専任教員3人、専任教員4人で構成され、学生数との見合いからは適切である。運営委員長、副委員長の役割分担及び責任の所在は「法政大学大学院連帯社会インスティテュート運営委員会規程」に明示されている。カリキュラムは、「労働組合プログラム」、「協同組合プログラム」、及び「NPOプログラム」を柱として、基本科目、必修科目は専任教員が担当している。選択必修科目は専任教員に加え、当該科目にふさわしい本学教員、専任講師が配置されており、適切である。

FD活動については、基本科目、必修科目、選択必修科目について、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、調査結果は運営委員会に提示した上で、授業改善のための議論を行っており、適切である。

3つのプログラムは、それぞれを専門分野とする専任教員が担当しており、活動の活性化や資質向上については各教員の判断に任されているが、今後は研究活動の共有化を図る等の取り組みについて検討の余地がある。

講義のひとつである「連帯社会とサードセクター」は、社会貢献活動の一環として、一般の聴講を認めており、優れた取り組みである。

6 学生支援**(1) 点検・評価項目における現状**

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。2018年度6.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

2020年度のNPOプログラムに外国人留学生が入学したが、授業履修や修士論文作成において指導教員を中心に3教員が連携して修学に困難が生じないよう配慮しており、無事2021年度に修了した。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

6.1②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1②に対応

B： 改善することができなかった

※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・社会人学生ということもあり、生活相談のニーズについては出身組織で対応している。労働組合、協同組合、NPO のいずれもが生活相談を得意とする組織であり、学生は大学よりも手厚い支援を得られている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【学生支援の評価】

連帯社会インスティテュートでは、2020 年度に NPO プログラムに入学した外国人留学生に対して、指導教員を中心に 3 教員が連携して履修指導、修士論文指導を行い、2021 年度に当該学生は修了した。インスティテュートの特質から、外国人留学生の入学・在籍が常時あるわけではなく、そのことが指導教員を中心とした専任教員 3 名全員での共同指導体制をとることが可能となっているといえる。外国人留学生の就学支援は優れている。

学生の生活相談への対応については自己点検・評価シートでは B 評価としているが、シートに記載されているとおり在籍する学生は社会人であり、所属学生の生活相談は出身組織において対応していると考えられる。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーターなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018 年度 7.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。

・(公財)教育文化協会・連帯社会研究交流センターから「連帯社会とサードセクター」、フィールドワークの実施などを中心に、全般的に経済的・技術的・人的支援を受けている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

7.1②研究科(専攻)として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

※取り組みの概要を記入。
・COVID-19 対策として、Zoom でのオンライン授業の実施推進を図ったほか、教室授業においては、空調の拡充やアクリル板の導入などにより三密・感染リスクの回避の徹底を図った。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・連帯社会研究交流センターは、事務長を含む3名の専任スタッフが配置され、授業アンケートや予復習のための授業映像の撮影・記録のほか、連帯社会とサードセクターにおけるゲスト招聘のための予算など、教育研究環境の整備において多大な貢献を行っている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【教育研究等環境の評価】

連帯社会インスティテュートは（公財）教育文化協会・連帯社会研究交流センターから経済的・技術的・人的支援を受けており、教育研究活動を支援する体制は整備されている。

また、COVID-19 対策として、オンライン授業の実施推進を図ったほか、教室授業においては空調の拡充やアクリル板の導入などにより三密・感染リスクの回避を図っている。これらの取り組みは COVID-19 への対応・対策として適切である。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018年度 8.1①に
対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。
・オムニバス授業「連帯社会とサードセクター」では多様な労働組合、協同組合、NPO の学外協力を得て実施している。フィールドワークでも当該地域で活動する NPO の協力を得ている。これらの組織と社会連携を持つことを前提にカリキュラムが組まれている。
・プログラムと関連する専門性習得を期待する労働組合、協同組合、NPO の専従・役職員である社会人を多く受け入れて大学院教育を行い、連帯社会を担いうる人材を社会に送り出すことが社会貢献につながる。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・本インスティテュートは非営利組織との社会連携を前提に、社会貢献の推進を目的のひとつに創設された社会人大学院である。特に、労働組合や協同組合が組織的に連携・支援している高等教育機関としては学部・大学院含め国内では他に例をみないものであり、十分な特色をもっている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

連帯社会インスティテュートのオムニバス授業として行っている「連帯社会とサードセクター」は、多様な労働組合、協同組合、NPO の学外協力を得ている。また、プログラムと関連する専門性習得を期待する労働組合、協同組合、NPO の専従・役職員である社会人を多く受け入れて大学院教育を行い、連帯社会を担う人材を社会に送り出すことによって社会貢献を果たしている。これらの取り組みは、学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組みとして評価できる。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度9.1①に対応

はい
※概要を記入。 ・「法政大学連帯社会インスティテュート運営委員会規程」を策定しており、月例の運営委員会では、授業計画、研究指導、学生の状況、直面する課題などについて真摯な議論を行い、それを踏まえて各教員は授業、研究指導等を進めている。 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学連帯社会インスティテュート運営委員会規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【大学運営・財務の評価】

連帯社会インスティテュートは、「法政大学連帯社会インスティテュート運営委員会規程」に基づいて、月例の運営委員会では、授業計画、研究指導、学生の状況、直面する課題などについて議論を行い、これを踏まえて各教員が授業、研究指導にあっている。これらの取り組みは、運営委員会等の権限や責任を明確にした規程の整備、及び規程に則って運営されているものであり、評価できる。

III 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】				
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。 				
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて2020年度に自己点検を行った結果を踏まえ、毎年見直しを行うためのフォーマットを作成する。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に決定する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握した資料を作成する。 ・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行うためのフォーマットを作成する。 				
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などに基づき、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する教務委員会を開催し、それらが決定、実施の体制が整備されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究科の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理された資料が作成されること。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットを作成されること。 				
	年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>○授業科目</td> </tr> </table>	自己評価	A	理由	○授業科目
自己評価	A					
理由	○授業科目					

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットの作成は、各教員がサンプルを提示、内容の検討を行った。そのフィードバックを受け、来年度、担当科目のフォーマットを作成することになった。 履修生から意見や希望を聴取する時期や方法については、教務委員会で、時期・手法を検討した。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 他研究科などが実施内容について示した一覧表を作成した。これに基づき、議論、結論は来年度に持ち越すことになった。 3プログラム制に基づくゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導についての自己点検フォーマットは、各教員が「授業科目」の案を参考に、フォーマット案を作成し、来年度にフォーマットを決定することになった。
	改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて、他の研究科や大学の授業の方法を調査、整理すること。 非常勤の教員については、教育方法について把握、検討していく具体的な方法を議論し、決定すること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、教務委員を中心に見直しを行うこと。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関して、他研究科や大学の授業方法を調査、整理されること。 非常勤の教員については、教育方法について把握するための具体的な方法について決定されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、それぞれ維持か変更かを判断し、変更の場合、新たな方法が決定されること。
	年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <p>自己評価 A</p> <p>理由</p> <p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> FD実施に関して、他研究科や大学の授業方法に調査、整理の方法について議論した。 非常勤の教員については、教育方法を把握するための具体的な方法について議論した。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、検討の結果、当面、現状維持することになった。 <p>改善策 —</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を作成の必要性を検討し、必要な場合は、この基準を設定し、導入する。 オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、必要な場合は、導入する。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、具体策を決定する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、基準や指標に基づく指導体制を決定する。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた行程表を決定する。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性が検討され、必要な場合は、導入に向けた行程表が決定されること。 オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正が行われること。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが決定されること。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入の是非を決定すること。 <p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性が検討され、必要な場合は、導入に向けた行程表が決定されること。 オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正が行われること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが決定されること。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進捗についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入の是非を決定すること。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性を検討した結果、必要との認識に至り、作成の行程は来年度以降検討することになった。 オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討した結果、見直しを行う必要性が確認され、来年度以降、修正を進めていくことになった。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、単位取得割合を学期後に確認し、割合向上策を次年度以降に決定、実施していくことになった。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討していくことになった。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進捗についても判断するプロセス評価の手法を検討していくことになった。なお、『6年間の総括』誌を刊行した際、在学中の教育研究のフィードバックした結果を盛り込んだ。
	改善策	—
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから修了生および推薦団体に満足度を確認を依頼する。 一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案を作成する。また、協同組合プログラムの広報の課題の抽出と実施方法を検討する。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、2020年度に議論された研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などをベースに、具体的基準を決定する。 留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法を決定する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度にOB/OGと在校生とのつながりを作ることにについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、修了生および院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、その回答が整理されること。 ・一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案が作成されること。協同組合プログラムの広報課題の抽出し、課題に対応した広報手段が決定されること。 ・インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について検討結果が出され、次年度以降に具体化されるメドがつけられること。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案が作成されること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法を決定されること。 ・OB/OGと在校生とのつながりを作ることにについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について決定されること。
		教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
	年度末報告	理由 <ul style="list-style-type: none"> ○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試について、修了生および院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するため、実施方法を検討した結果、連帯社会研究交流センターに学生募集活動の際、満足度を確認を依頼することになった。 ・一般入試については、NPOプログラムだけでなく、それぞれのプログラムが案を作成することが確認された。 ・インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布などのうち、独自の説明会は実施された。配布物は現状のものを活用しているが、一部プログラム単位での説明資料が作成された。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案の作成について検討された。 ・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかることが合意され、パンフ活用の方法を今後検討することになった。 ・OB/OGと在校生とのつながりを作ることにについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになった。また、インスティテュートの同窓会と連動した学習会の開催等、オンライン参加の可能性など具体策を検討していくことになった。
		改善策 ー
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤の教員の考えのインプット <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤の教員の考えのインプット <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度にプログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えを受ける方法について検討し、各プログラム教員がインプットを受けることが確認されたことを受け、教務委員会でインプットを受ける方法を定める。その方法に基づき、各教員は、非常勤の

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有し、次年度以降に具体策を導入するメドをつける。
	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・教務委員会でインプットを受ける方法が決定され、その方法に基づき、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有され、次年度以降に具体策を導入するメドがつけられること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 B
		理由 ○非常勤の教員の考えのインプット ・教務委員会でインプットを受ける方法について検討したが、具体的な方法は来年度以降に決めることになった。
		改善策 ○非常勤の教員の考えのインプット ・教務委員会における検討材料として、授業アンケートの結果を送付する際や次年度の担当継続を依頼する際に、インプットを依頼する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業に関する内容のうち、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているかについては、2020年度に把握された。これを踏まえ、活用策について検討する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前に複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリット検討が必要という認識がだされ、2020年度に副査への事前の草稿のチェックを依頼することになった。その結果を検討し、改善策を検討する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって具体策を検討する。
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業について、オフィスアワーの活用策について議論され、一定の結論がえられること。 ・論文指導に関しては、副査へ聞き取りなどを通じて、事前の草稿チェックの効果と課題が抽出され、改善策が提示されること。 ○その他 ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえることで、次年度以降の支援策が改善される道筋がつけられること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法が決定されること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		教授会執行部による点検・評価	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業について、オフィスアワーの活用策について議論が行われたが、結論は次年度以降に持ち越すことになった。 ・論文指導に関しては、副査へ聞き取りなどを通じて、事前の草稿チェックの効果と課題が抽出され、改善策について検討が行われた。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討したが、結論に至らなかった。しかし、『6周年』誌において修了生を対象に学生ニーズが収集・整理された。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、ガイダンスやオムニバス授業を通してプログラム横断的なコミュニケーション機会の形成を学生に促すことになった。
		改善策	—
		No	評価基準
7	中期目標	中期目標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</p> <p>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</p>
		年度目標	<p>○修了生の割合の高率維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。 <p>○研究成果の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。
		達成指標	<p>○修了生の割合の高率維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持されること。 <p>○研究成果の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果が大学の業績開示のサイトにアップされていること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	<p>○修了生の割合の高率維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持されることが必要と認識しているが、現在まで、この数値は維持されている。 <p>○研究成果の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果が大学の業績開示のサイトにアップされていることが確認されるとともに、今後も継続していくことになった。
		改善策	—
<p>【重点目標】</p> <p>「学生支援における学習支援」</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な制約が強い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、</p>			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。また、出張や残業などによる欠席や遅刻への対策として、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入を検討してきたが、一部科目などで導入された。

【年度目標達成状況総括】

上記のように、連帯社会インスティテュートとしては、2021年度の年度目標をおおむね達成できた、と考えている。これはコロナ禍におけるオンラインによる授業や会議の導入が昨年度に実施され、オンライン利用の「慣れ」のうえで、オンラインの成果及び課題を踏まえて今年度の取り組みを進められたことも影響していると思われる。例えば、科目ごとの自己評価シートの作成やリサーチペーパーの導入、入試広報などは、オンラインでの議論を通じて進められた。そして、次のステップに向かう具体的な作業を実施することができた。一方、議論を行ったものの、具体的な対応の決定や実施まで進まず、来年度以降に持ち越した課題もある。これらの課題は、次期中期計画に盛り込むなどして、確実に進めていく必要があると認識している。

【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】

連帯社会インスティテュートは、「教育課程・学習内容」、「教員・教員組織」、「学生支援」に関しては、いずれも「来年度に作成する」、「結論は来年度に持ち越す」、「現状を維持する」など、消極的な自己評価がなされているが、所属学生の属性等を勘案すれば学部学生を対象とした評価基準をそのまま本インスティテュートに適用することは適切であるとはいえない。むしろ、所属学生の問題意識に対して専任教員3名と非専任教員4名が一体となって対応していると評価すべきであり、教員7名も積極的に教育研究活動に取り組んでいるといえる。シラバスにおける「到達目標」を把握する基準の必要性を認識し、修正を進めることとなった点や、学生による研究報告内容の評価基準や指標等に課題がある点、修士論文の進捗について判断する手法を検討する必要性を認識している点などが挙げられており、これらの課題に対する積極的な改善意識が見受けられる。さらに、本インスティテュートの最大の特色である社会との連携、社会貢献活動は優れた取り組みが多く見受けられ、「教育課程・学習内容」、「学生支援」に対するA評価は適切である。

「教員・教員組織」はB評価としており、その理由としては非常勤の教員の考えをインプットする仕組みについて今年度決定する予定だったが、来年度以降に持ち越しとなっている。改善策が提示されているため来年度に期待したい。「社会貢献・社会連携」については、「連帯社会の構築を担う実務家を育成する」という設立目的の持続的な達成を目論み、入学者の卒業割合を80%以上としているところ、現在までこれを維持していること、また専任教員による著作活動、学会発表・講演等を外部に発信し、研究成果は大学の業績開示サイトにアップされていることが確認されたことからS評価としており、当該評価は適切である。

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、自己点検フォーマットを作成、自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。 ・科目等履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、2021年度に決定した自己点検フォーマット案を試行し、フォーマットを確定させる。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		<p>置、シラバスの記載項目などについて2021年度に自己点検を行った結果を踏まえ、毎年見直しを行うためのフォーマット案を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に決定する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握した資料を作成する。 ・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、フォーマット案を用いた自己点検を行い、検討する。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などに基づき、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する教務委員会を開催し、それらが決定、実施の体制が整備されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究科の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理された資料が作成されること。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、ゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、引き続き議論し、必要に応じた措置をとる。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて、他の研究科や大学の授業の方法を調査、整理すること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握、検討していく具体的な方法を議論し、決定すること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、改めて改善の余地を確認・検討する。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関して、他研究科や大学の授業方法を調査、整理されること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握するための具体的な方法について決定されること。 <p>○修士論文</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、それぞれ維持か変更かを判断し、変更の場合、新たな方法が決定されること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	○授業科目 ・前期の検討を通し、個々の教員が担当している科目については、シラバスにおける到達目標の基準策定が必要と判断された。具体的な検討を経て、到達目標導入に向けた努力を図る。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を進め、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、院生の単位取得割合を学期後に確認し、割合向上策の策定を進める。 ○修士論文 ・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断するフォーマット案の策定を試み、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価のフォーマット案を策定し、導入に務める。
	年度目標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準案策定に向けた試行を進める。 ・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を進める。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置の具体的なプラン案を策定する。 ○修士論文 ・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断するフォーマット案の策定・実施に関わる指導体制を決定する。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた行程表を決定する。
	達成指標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性が検討され、必要な場合は、導入に向けた行程表が決定されること。 ・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正が行われること。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。 ○修士論文 ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについてフォーマット案の策定が行われること。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた試行を前進させること。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	○入試広報

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度の把握から改善までのサイクル整備を試行する。 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）のさらなる活用・普及策を検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成し、実施に向けた整備を図る。 留学生の受け入れ拡大に向けた対策として英文パンフの活用を中心に、可能な措置を導入する。 社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGによる同窓会組織と協力し、潜在的受験生の掘り起こしなど、可能な措置を導入する。
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから修了生および推薦団体に満足度を確認を依頼する。 一般入試については、NPO プログラムを中心に広報案を作成する。また、協同組合プログラムの広報の課題の抽出と実施方法を検討する。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の改訂や配布について、予算措置を含め検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、2020年度に議論された研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などをベースに、基準の具体化を図る。 留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる具体的方法を決定する。 2020年度にOB/OGと在校生とのつながりを作ることにについては、入学式、修了式後などに同窓会組織の協力を得て交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生も参加できる方途を探る。
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、修了生および院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、その回答が整理されること。 一般入試については、NPO プログラムを中心に広報案が作成されること。協同組合プログラムの広報課題の抽出し、課題に対応した広報手段が決定されること。 インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について検討結果が出され、次年度以降に具体化されるメドがつけられること。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案が作成されること。 留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法が決定されること。 OB/OGと在校生とのつながりを作ることにについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について決定されること。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> 専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		占めているという認識に立ち、前期に引き続き非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット ・2020年度にプログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えを受ける方法について検討し、各プログラム教員がインプットを受けることが確認されたことを受け、教務委員会でインプットを受ける方法を定める。その方法に基づき、各教員は、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有し、次年度以降に具体策を導入するメドをつける。
	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・教務委員会でインプットを受ける方法が決定され、その方法に基づき、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有され、次年度以降に具体策を導入するメドがつけられること。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場を設け、恒常化することを検討、必要な場合、院生会等を設ける。
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業に関する内容のうち、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムに対する各教員の取組を共通化できる措置を図れるか検討する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前に複数の教員による指導体制の確立を模索するとともに、2021年度に実施した副査への事前の草稿のチェックの効果について、その結果を検討し、改善策を検討する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって具体策を検討する。
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業について、オフィスアワーの活用策について議論され、一定の結論がえられること。 ・論文指導に関しては、副査へ聞き取りなどを通じて、事前の草稿チェックの効果と課題が抽出され、改善策が提示されること。 ○その他 ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえることで、次年度以降の支援策が改善される道筋がつけられること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法が決定されること。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

	○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。
年度目標	○修了生の割合の高率維持 ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。 ○研究成果の発信 ・専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果をより積極的に外部に発信する方法について検討する。
達成指標	○修了生の割合の高率維持 ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持されること。 ○研究成果の発信 ・専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果が大学の業績開示のサイトにアップされていること。
<p>【重点目標】 3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、ゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 目標達成のため、前年度作成したフォーマット案を運営委員会等、教員間で協議する時間を設けることで再度の検討を進め、自己点検フォーマットを完成させる。</p>	

【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

<p>連帯社会インスティテュートの「教育課程・学習成果」については、本年度において毎年見直しを行うためのフォーマット案を作成し、中期目標として当該フォーマットに基づくフィードバックと、学生からの意見や希望を聴取しながら改善すること、並びに修士論文の「研究報告」に対する評価基準の策定等を掲げている。また、教育方法については、本年度において他の研究科や大学の授業方法を調査・整理することを、また中期目標としては過年度の検討をシラバスに反映させること、及び個々の教員の単位認定割合を確認し、フィードバックすること、並びに修士論文について提出時の評価のみならず、執筆過程における進捗についても評価方法を検討することを掲げている。</p> <p>「学生の受け入れ」については、本年度の目標として、修了生及び推薦団体を通して満足度を確保することや、ウェブサイト充実、広報マテリアルの改訂を掲げており、中期目標としてはこれらの継続的検討及び改善、及び同窓会組織と連携した潜在的な受験生の掘り起こしを掲げている。</p> <p>「教員・教員組織」については、専任教員に関しては3人であるため特段の課題はないものと認識している一方で、非専任教員に関しては、各教員の考えのインプットを本年度及び中期の目標としている。授業を展開する上で非専任教員への依存度は小さくないことを認識しており、意見交換会などを通して、こうした課題の解決を図ることを目標としている。</p> <p>「学生支援」については、オフィスアワーの活用、複数教員による論文指導、学生のニーズ把握、学生間のコミュニケーションを図ること等を本年度の目標とし、これらの取り組みを恒常化することを中期目標としている。</p> <p>「社会貢献・社会連携」については、修了生の割合の効率維持と研究成果の発信を継続することを本年度の目標とし、中期目標として連帯社会の構築を担う実務家を育成することによって社会貢献・社会連携という設立目的を持続的に果たすこと、研究成果の積極的な発信による社会貢献・社会連携を達成することを掲げている。</p> <p>これらの本年度中期目標・年度目標は、本学の建学の精神及び大学憲章に対して適切であり、また目標達成に対して具体的である。</p>
--

【大学評価総評】

<p>連帯社会インスティテュートは、社会人学生に対して3つのプログラムを軸としたカリキュラム編成を行っており、各領域を専攻する教員による講義と論文指導が行われている。特に、オムニバス形式による「連帯社会とサードセクター」は、実務家を中心とした多彩な講師陣による講義であり、これを必修科目とすることによってプログラム横断的な知識と</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

思考力の涵養を実現している点は高く評価できる。また、論文指導においては1年次、2年次に各2回、計4回の「研究報告」を実施するとともに、指導教員を中心とした専任教員3人による共同指導体制により、きめ細かい論文指導が行われている点も高く評価される。

学習成果の測定指標の導入については検討途上であると報告されているが、3—④の所見にも記したように、既に自ずと測定できていることも少なくないと判断されるため、「測定指標」は柔軟に考えて報告されたい。

「教員・教員組織」に関する課題としては、「非常勤の教員の考えのインプット」が掲げられており、非常勤の教員への依存度が高い現状においては適切な課題設定であるといえる一方で、運営委員会の指導力を発揮すれば比較的解決は容易であると思われることから、当該課題については本年度において解決されることが期待される。

重点目標である「学生支援における学習支援」に対しては、所属学生には就労にともなう時間的な制約があることを踏まえた施策の必要性が認識されており、特に学生間のコミュニケーションや連携の促進と共通のニーズを把握するための方法の検討が掲げられている。所属学生の属性に一对一に対応することは困難であるとしても、本インスティテュートの特性を活かした方策の具体化が望まれる。

なお、自己点検・評価シートにおける「問題点」、「長所・特色」については「特になし」の記載が少なからず見受けられたが、本インスティテュートの設立趣旨に則った独自の取り組みや、教員・教員組織、及び所属学生の経歴・職歴の特性等の視点から何らかの記載がなされるべきであるといえる。本インスティテュートは東京の有力大学の中では稀少価値のある存在なので、長所・特色についてももう少し自己肯定的なアピールをされたほうがよいと考える。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

総合理工学インスティテュート

学部基礎情報

<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p>サステナブルなグローバル社会を支える理工学分野の実践知と実行力を有し、グローバル社会でリーダーとして活躍できる高度技術者・研究者としてふさわしい人材に学位を授与する。所定の単位を取得し、修士論文または博士論文を提出、審査に合格することを修了要件とする。</p>
<p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>理工系研究科（情報科学または理工学）の各専攻専門領域の教育プログラムと研究科・専攻横断的なフィールドの教育プログラムを統合し、深い専門性と幅広い問題解決能力を身につけることを可能とするカリキュラムを提供する。グローバルな研究開発分野のニーズに対応する実践知の涵養を目指すとともに、ブリッジエンジニアに求められる日本語コミュニケーション能力の基礎を教授する。</p>
<p>【アドミッション・ポリシー】</p> <p>グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍する意欲に溢れる学生を広く受け入れる。英語による講義でプログラムが組まれているため日本語能力は要求しないが、日本語運用能力があればさらに幅広い学びが可能となる。入学者はあらかじめ受け入れ担当教員を決め研究計画を提出し、学識審査を経て入学が許可される。</p>

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2021年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>IISTは2016年以来、理工学・情報科学両研究科との密接な連携の下でグローバル人材育成が進められ、短期間のうちに修了生を輩出するまでに進捗していることは高く評価できる。昨年度より新規フィールドとしてIRとDSを開設した点は時宜を得ており、学生の受け入れ実績も高く評価される。二度にわたるベトナム・チュニジアとのウェブ形式コロキウムの取り組みは高く評価され、今後は水平展開も含めて持続的に発展することが期待される。IIST在学生の研究業績は133件の学術論文発表など高い水準にある。修了生はまだ少数であるため、修了後のキャリア追跡調査をしばらく継続して、学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性を検証することが望まれる。一方、IIST専修生だけではなくIISTプログラムを履修した理工学・情報科学研究科の大学院生のグローバル度を計測・評価することも望ましい。外国人留学生の場合には修了後にIISTとの関係が希薄になることが懸念されるため、IIST-Alumniを組織化しIISTへの継続的支援体制を構築すれば、人的な国際ネットワークを維持しグローバル人材を継続的に育成できる可能性がある。DSフィールドへの学生入学と教育は今後の継続的課題であり何らかの対策を講ずることが必要である。いずれの研究フィールドについても、より多くの学生を集め海外組織とのネットワークを構築するためには、URLの整備や多角的な広報を通してIISTの実像を可視化し学内外に周知することが何よりも重要である。残念ながら現状のままではURLからIISTを理解することは難しい。既存二研究科の教育研究活動、教育組織などとリンクしたURLコンテンツを整備すること、コロキウムなどIIST独自の取り組みを公開アーカイブ化してURLにアップロードすること、などは現実的で早急に実現できる整備内容である。</p> <p>IISTの設立経緯を勘案すると、今後しばらくは理工学・情報科学分野を中心にIRとDSの研究教育を進めることとなるが、IRについてはさらに生命科学へ展開する可能性があり、DSは全文理科学分野に軸足を持つフィールドである。中長期的には学内の教育研究資源を利用した総合大学としてIIST研究フィールドの水平展開も今後の戦略に位置づける余地があり、今後に期待したい。</p>
<p>【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>修了生のキャリア追跡とIIST-Alumniの組織化に対しては、2021年度より実施している在校生に対する進路希望アンケートとIIST卒業生と在校生の意見交換交流会をさらに充実させ、キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。DSフィールドの再編に関しては、潜在的にDSを研究している教員も多いため、横断的な連携を深めることにより、再編の足掛かりとする。広報の充実もURLコンテンツの整備も途上である（2022年2月ホームページリニューアル）のでさらなる充実が可能であると考えている。</p>

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

<p>IISTは情報科学研究科、理工学研究科の共同で英語による学位授与を行っており、グローバル人材の育成に大きく貢</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

献している。2016年9月の開設から少しずつ修士生が増えてきたこともあり、この時期に在校生に対する進路希望アンケート、卒業生と在校生の意見交換交流会といった学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性をとるための取り組みを開始したことは評価できる。また、海外に向けての広報が課題であったが、ホームページがリニューアルされ、IISTの全体像を紹介するプロモーションビデオが公開されたことは高く評価できる。また、ニュースレターの発信を行っていることも高く評価できる。今後のさらなるWebコンテンツの拡充に期待したい。データサイエンスフィールドおよびインテリジェントロボティクスの再編については、ワークショップの開催などで研究している教員同士の連携を図ろうとしていることは評価できる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①研究科（専攻）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。 **新規**

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 **新規**

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①研究科（専攻）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 **新規**

はい

1.2②研究科（専攻）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。 **新規**

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【理念・目的の評価】

IIST 自体の理念は存在しないが、IIST を構成する教員の所属する理工学研究科では「自己点検評価」、「年度目標」策定時に専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保障委員会を中心に、それぞれの研究科の理念の検証が定期的に行われていることが確認できた。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。新規

いいえ
【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。
IISTには質保証委員会は存在しない。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【内部質保証の評価】

IISTに質保証委員会は存在しないが、IISTを構成する教員の所属する理工学研究科、情報科学研究科において、それぞれ質保証委員会が組織され、適切に活動が行われていることが確認できた。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。新規

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。新規

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。新規

はい
【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

新規

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。2021年度1.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3.3②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。2021年度1.1②に対応

はい

【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

3.3③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。2021年度1.1③に

対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3.3④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。2021年度1.1④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

【修士・博士】

インテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。

【博士】

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.3⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。2021年度1.1⑤に対応

B : 改善することができなかった
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 【修士・博士】 2020年度に行われたコロキウムは2021年度には実施できなかった。2022年度からのIIST新任教員を中心としたウェビナー形式のワークショップ等の開催を検討する。
【博士】
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.4②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。2021年度1.2②に対応

はい
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します(学位取得までのロードマップの明示等)。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。 【修士・博士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。
【博士】
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 根拠資料 1_a)・b) _2021年度ガイダンスレジュメ

3.4③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。2021年度1.2③に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

はい
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.4④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。新規

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。
IIST 担当教員の第三者による全シラバスチェック。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 根拠資料 2_2022 年度 シラバスの第三者確認について（報告）

3.4⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。新規

いいえ
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。
現在、授業がシラバスに沿っているかの検証は行っていない。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.4⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021 年度 1.2④に対応

※取り組みの概要を記入。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021 年度 1.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【確認体制及び方法】※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

3.5②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。2021年度1.3②に対応

はい
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。

3.5③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.5④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。2021年度1.3④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.5⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。2021年度1.3⑤に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※責任体制および手続き等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行っている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.5⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。2021年度1.3⑥に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

はい
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。
修了生に対して就職・進学状況の調査、在学生については修了後の進路希望調査を実施した。その結果 IIST 生は研究指向が強く博士後期課程修了の学生については大学、研究機関、修士課程修了者については博士後期課程進学者が多いことが示された。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 3_a) _修了後連絡先・進路先に関するアンケート調査結果報告
根拠資料 3_b) _2021 年度 IIST 在学生の修了後の進路希望調査

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021 年度 1.4①
 に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.6②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021 年度 1.4②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
【修士・博士】 IIST 在学生の発表論文リストを作成、累積で 164 件のジャーナル 論文、学会発表を確認した。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 4_発表論文リスト

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021 年度 1.5①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021年度1.5②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
【利用方法】※取り組みの概要を記入。
2019年度より、今後授業改善アンケートを実施しIIST運営委員会で結果を共有し改善に向けた取り組みを行うことと定めた。9月入学のため、春学期修了後次回アンケートを実施することとした。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること(3.1~3.2)>

理工学研究科、情報科学研究科においては、適切に学位授与方針が設定されている。これらの研究科では、質保証委員会、専攻主任会議において教育目標、学位授与方針、教育課程等について議論が行われていることが確認できた。

<②教育課程・教育内容に関すること(3.3)>

IISTは英語による学位授与を行っており、積極的にグローバル人材の育成に取り組んでいる。コロナ禍で入国制限がある中でも一定数の入学者を確保できていることは高く評価できる。情報科学研究科で行われている中国模範的ソフトウェア学院のダブルディグリープログラム修了生が、IISTにおいて博士課程を修了するといった成果は高く評価でき、順調にグローバル人材の育成を推進できていることがわかる。重点分野であるインテリジェントロボティクス分野は複数名の学生を受け入れられているが、データサイエンスを直接研究している学生がいないという報告があった。2021年度に例年行っていたコロキウムを実施できなかったのは残念であるが、「検討中」とあったIIST新任教員を中心としたワークショップ等研究者同士が相互に刺激を与え合えるような場を設けていくことが望まれる。

<③教育方法に関すること(3.4)>

ガイダンス時に学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えていることから、学生の履修指導については問題なく適切に行われていることがわかる。シラバスについては成績評価の方法、基準を明示しており、IIST教員による全シラバスチェックが行われており、正しい手順でシラバスが作成されていることがわかる。

<④学習成果・教育改善に関すること(3.5~3.7)>

IISTは在学生の発表論文リストを作成しており、累計で164件のジャーナル論文、学会発表があることは高く評価で

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

きる。また、授業改善アンケートについては、2019 年度から実施されており、IIST 運営委員会で結果を共有していることは評価できる。積極的にアンケート結果を元に授業の改善に繋げてもらいたい。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。新規

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。新規

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

出願前に希望学生と指導教員とのマッチング面接を行なっている。

2022 年度より各専攻ごと複数教員による面接試験の実施。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

根拠資料 5_a) 入試要項

根拠資料 5-b) マッチング資料

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。新規

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

2016 年度発足時から 2 年間は定員の 40%であったが、2018 年度から 2 年間はほぼ定員を充足、2020 年度はコロナのため 2/3 の充足率、2021, 2022 年度はそれぞれ 15. 16 と定員数を充足している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

根拠資料 6_入学者数

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。新規

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

・志望学生の国、大学を調査し、志望が多い国（中国、ベトナム）、大学（西南科技大、ベトナム国家大学ホーチミン市情報技術大学）を中心に広報を行う。

・英語スコアの提出を免除していた指定校からの学生の英語能力が低いこともあり、指定校を廃止し、すべての受験生に英語スコアの提出を義務化した。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

根拠資料 6_入学者数

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
指定校の廃止は受験生の数の低下を招く可能性があるが、英語能力を維持するために廃止に踏み切った。今後の検証が必要である。

【学生の受け入れの評価】

IISTは多くの海外の学生が出願してくるため、マッチングや学生の能力の見極めを怠ると、長い目でみて学生、教員双方にとって不利益となる。その点、IISTは出願前に学生と指導教員とのマッチング面接を行なうとともに、2022年度より専攻ごとに複数教員による面接試験を行っており、入学者に対して適切な対応を行っていることは高く評価できる。また、学生募集の結果についての検証が行われおり、志望学生の国、大学を調査し、志望が多い国を中心に広報をおこなっていること、水準を落とさないために指定校を廃止しすべての英語スコアの提出を義務付けたのは、優秀な学生を受け入れるための手段として高く評価できる。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。 **新規**

【インスティテュート執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。
IIST 運営委員長 1 名、運営副委員長 2 名 IIST 運営委員会：IIST に関する人事、授業科目、入学志望者に関する事項を審議する。 責任体制：必要に応じて両研究科教授会においても審議する。
【明示方法】※箇条書きで記入。
委員長は委員の互選。 副委員長は委員長の指名。 副委員長は委員長を補佐、委員長不在時は委員長代行
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 7_法政大学大学院総合理工学インスティテュート (IIST) 運営委員会規程

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 **新規**

はい
※カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>9つのフィールドに分類されている授業について、情報科学研究科・理工学研究科の高度な専門性を有する教員が担当している。なお、授業を担当している専攻は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル情報システムフィールド—情報科学、応用情報工学 2. ユビキタス通信ネットワークシステム—情報科学、応用情報工学、電気電子工学 3. グローバル経営情報システムフィールド—情報科学、システム工学 4. メディア・情報処理フィールド—情報科学、応用情報工学、電気電子工学、システム工学 5. 医療・健康・福祉理工学フィールド—応用情報工学、電気電子工学、生命機能学 6. 先端化学・生命科学フィールド—生命機能学、応用化学 7. フィールド共通科目 コンピュータサイエンス領域—情報科学、応用情報工学、システム工学 8. フィールド共通科目情報理工学基盤領域—情報科学、応用情報工学、システム工学、電気電子工学 9. IIST 共通科目—情報科学 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>根拠資料 8_開講科目一覧</p>
--

5.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.3①研究科（専攻）内の独自のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p> <p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。</p> <p>【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし。</p>

5.3②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p> <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし。</p>
--

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してく

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

ださい。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【教員・教員組織の評価】

IIST の 9 つのフィールドに分類されている授業については情報科学研究科・理工学研究科の専門性を有する教員が担当しており、カリキュラムに即した教育体制が取られてことが確認できた。新規専任教員による新しい英語科目も開設されており、英語による講義がより充実したことは評価できる。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 **新規**

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。
入学前に志望学生と希望教員とのマッチングによる学生と適切な教員を組み合わせる。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 5-b)_マッチング資料

6.1②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 **新規**

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
IIST 卒業生と在校生の意見交換交流会の開催。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 9_第 1 回 IIST 修了生と在学生との交流イベントの開催について（ご報告）

6.1③博士後期課程において、将来大学教員になった際に必要なスキルを得られる機会を設定していますか。また当該機会に関する情報を適切に提供していますか。 **新規**

はい
※取り組みの概要を記入。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

--

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【学生支援の評価】

IISTは、入学前に志望学生と希望教員とのマッチングを実施しており、このような取り組みは新入学生、教員双方にとっても、入学後のトラブルを減らすという大きなメリットがあるため高く評価できることから、今後も継続してもらいたい。2021年度から始まったIIST卒業生と在校生の意見交換会も持続的に発展することが期待される。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーターなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。 **新規**

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

7.1②研究科（専攻）として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。 **新規**

※取り組みの概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

--

【教育研究等環境の評価】

理工学研究科、情報科学研究科のそれぞれで充実した TA、RA の仕組みがあるため、IIST の教員はこれらの学生等の支援を受けながら教育研究活動を行えることが確認された。また、COVID-19 への対応としては、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業が実施され、教室内で学生が密にならないように教室の定員数を減らすなどの対策をとったことが確認できた。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。 **新規**

B：改善することができなかった	
※取り組み概要を記入。	
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
特になし	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	

【社会貢献・社会連携の評価】

学外組織との連携協力、社会貢献活動については改善されなかったことが報告された。今後、なんらかの活動が行われることを期待する。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。 **新規**

はい	
※概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

IISTの企画・運営に関する事項を審議するために情報科学研究科と理工学研究科教授会の下に IIST 運営委員会を設置している。IISTに関する次の事項は運営委員会において審議する。

- ・ IIST の運営管理を担う役割で採用する大学院任期付教員の人事に関する事項
- ・ 授業科目の編成及び担当者に関する事項
- ・ IIST 指定校の選定に関する事項
- ・ 入学志望者に関する事項
- ・ 委員長候補者の推薦に関する事項
- ・ その他 IIST に関する必要な事項

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

根拠資料 7_法政大学大学院総合理工学インスティテュート (IIST) 運営委員会規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【大学運営・財務の評価】

IISTの企画・運営に関する事項を審議するために、情報科学研究科と理工学研究科教授会の下に少人数ながら IIST 運営委員会 (IIST 運営委員長 1 名、運営副委員長 2 名) が設置されており、法政大学大学院総合理工学インスティテュート (IIST) 運営委員会規程のもと IIST に関する人事、授業科目、入学志望者に関する事項を審議する審議されていることが確認された。全ての問題をこの委員会だけで決定するわけではなく、必要に応じて両研究科教授会においても審議するという方針をとっていることから、責任体制に対しても問題なく運営されているものと判断される。

III 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の 6 つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査などから両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
	達成指標	インテリジェンスロボティクス・データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織の確定
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	フィールド新設に当たり、インテリジェントロボティクスデータサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを最優先し、具体的なフィールドはその受け入れ実績を考慮して検

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

			<p>討することになった初年度である。2022年3月現在在校生中、インテリジェントロボティクスを研究している学生5名、データサイエンスは直接研究している学生はいないが、潜在的にデータサイエンスを研究している学生は多い。</p>
		改善策	<p>これらの学生の研究分野を広げるとともに、専攻横断的な教員の共同により、新フィールドの開設に向ける。</p>
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	IISTに認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
	年度目標	新設を目指す2フィールドを念頭にIIST科目のカリキュラム改編にむけた検討を行う。	
	達成指標	IIST設置科目の体系化	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		新規専任教員による新しい英語科目が開設され、IISTに認められた増コマの有効活用が可能になった。また、カリキュラム改訂により、英語科目を追加できる仕組みを作り、英語科目がさらに充実した。	
改善策	英語科目の追加できる仕組みを利用して、さらなる充実を目指す。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
	年度目標	継続してIIST学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IISTコロキウムとしてIIST学生の研究成果発表の機会を設ける。	
	達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		これまでに引き続き、研究論文数を調査し、2021年9月及び2022年3月修了者(14名)の公表論文数31件(ジャーナル8件、国際会議23件)と高水準にあることを確認した。	
改善策	-		
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。	
	年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。	
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		定員については、引き続きコロナ禍で、辞退の学生がでるなど、完全充足には至らなかった。また、修士課程から博士課程への内部進学する学生が多く、質の高い学生の確保については達成できている。	
改善策	-		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。	
	年度目標	IIST担当の任期付き教員を採用し、受け入れ可能な留学生数を増加させる。	
	達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
理由		新規専任教員による新しい英語科目が開設され、英語科目を追加できる仕組みを新たに作り、英語による講義が充実した。英語による研究指導対応数は増えていないが、受け入れ事務負担を軽減するようにした。	
改善策	英語教育負担の分散化と受け入れ事務負担の軽減化により、研究指導に専念できる環境をさらに整備し、受け入れ教員数の拡充に務める。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	昨年度実施した、終了後進路調査・進路希望調査にもとづき、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		B
理由		在校生については進路希望アンケートを行い、IIST 卒業生と在校生の意見交換交流会を開催し、卒業生と在校生の意見交換が可能となった。
改善策	アンケート調査や意見交換会の討論をもとに、キャリア支援を再検討する。	
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		2022 年度修了生の論文発表数(31 件)、博士受け入れ数 5 名のうち 3 名が内部進学となり、質の高い学生の受け入れに成功している。
改善策	-	
【重点目標】		
IIST は 2016 年 9 月に文科省スーパーグローバル大学創生支援を受けて設立された。2023 年度に文科省の財政支援が打ち切りとなるため、現在それ以降継続可能かどうかの検討に入っている。IIST 継続に向けて自己点検評価を踏まえてこれまでの活動を総括することが本年度最重点目標である。		
【目標を達成するための施策等】		
これまでの活動実績を、学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から評価を行い、本プログラムが存続する価値があるかについて担当理事も含めて、教学・経営面から総合的に検討する。		
【年度目標達成状況総括】		
IIST は文科省スーパーグローバル大学創生支援 (SGU 支援) が 2023 年度で終了するが、これまでの活動実績として、学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から本プログラムの今後の存続が認められ、事業継続及び自走化が可能となった。また、それに伴い IIST 専任の教員が SGU 支援後も認められた。		

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>IIST の成果が認められ、SGU 支援の終了後も事業継続及び自走化が可能となったことは大変高く評価できる。近年新設された分野の学生数については、インテリジェントロボティクスが 5 人、データサイエンスが 0 人であったとの報告があった。まだ始まってそれほど時間が経っていないため、分野の紹介に力をいれつつも結論を急がず、今後も留学生のニーズを調査し、フィールドの新設、再編を行なっていくことが望まれる。新たな英語科目が開設され、英語科目がさらに充実したことは評価できる。また、研究論文については 14 名の修了者の公表論文数 31 件と高水準であることは高く評価できる。定員については、コロナ禍により海外との往来が難しい中、完全充足には届かないものの健闘しており、博士課程への内部進学が多いことも、高く評価できる。IIST において、グローバルに活躍できる研究者の育成は順調になされているといえる。一方で、経済支援、キャリア支援については、学生の声を聞きながら、今後さらに改善していくことを期待したい。</p>

IV 2022 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
----	------	----------------------------

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド(Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering)を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査を継続し、両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
	達成指標	インテリジェントロボティクス、データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織を確定させる。特に、データサイエンスに関しては潜在的に関連している分野が多いため、それらの関連性を明らかにする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	IIST 設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。
	達成指標	英語科目を追加できる仕組みの導入により、英語科目の充実度を評価する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
	達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
	年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	IIST 担当の任期付き教員の採用により、他 IIST 教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
	達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	2020 年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
<p>【重点目標】</p> <p>IIST は 2016 年 9 月のスーパーグローバル大学院創成支援を受けて設立された。この支援が 2023 年度で打ち切りになるが、学生の受け入れ、受け入れ学生の学習成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点からそれ以降の存続が認め</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

られ、IIST 専任教員も認められた。事業継続と自走化のためにこれまでの活動実績と自己点検評価を踏まえて、これまでの活動の総括と新しい施策が本年度の最重点課題である。

【目標を達成するための施策等】

これまでの活動実績を学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から再評価を行い、事業継続と自走化を可能とするための方法を教学・経営面の観点から総合的に検討する。

【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

IIST は 2023 年度で SGU 支援が終了するが、それまでの成果が認められ事業継続が決まっている。

自走化を可能とするために、今後も教学・経営面の観点からの総合的な検討は不可欠である。危機意識をもって継続的に検討を行っていることは高く評価できる。教育課程については、今後の新規フィールド開設前に、最近設置したフィールドの学生数を確保しようとする方策が示されているが、IIST の高い水準の研究成果は、学生の興味と研究分野の適合であることもその一因であることから、学生の研究分野を充足していない分野に誘導することのないようにしていく必要がある。また、進学、就職に関しては、より日本社会に還元されるグローバル人材を輩出できるように、より一層の改善が望まれる。

【大学評価総評】

IIST は 2016 年 9 月に SGU 支援を受けて設立され、2023 年度で SGU 支援が終了するが、これまでの短い期間の間に、海外から多くの学生を受け入れ、研究成果発表を活発に行ない、修了生を輩出してきたことは高く評価できる。IIST の学生は、同じ研究科の日本人学生にとっても良い刺激になっており、法政大学のグローバル化に大きく寄与していることは高く評価できる。修士課程から博士課程への進学率は高く、博士受け入れ数 5 名のうち 3 名が IIST の内部進学となっていることから、その向学心の高さが窺える。修了生数は多くないものの、2021 年度から始まった IIST 卒業生と在校生の意見交換会は、キャリアを考える上で学生にとって貴重な機会となるため、持続的に発展することが期待される。世界で活躍するグローバルな人材育成のためには、このような交流会をより充実させることが望ましい。キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援はまだ検討の段階にあるものの今後も継続していく必要がある。入学する学生の確保については、IIST をどれだけ海外に向けて紹介してきたかにかかっているが、わかりにくいと評価されていた IIST の Web ページがリニューアルされたことにより、この問題はある程度改善されたものと思われる。今後は Web ページ上、学生生活、研究活動について英語の動画コンテンツを充実させていくことが望まれる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。